

授業科目等の概要																							
学科	服飾専門課程					ファッションデザイン科					1年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、バタンナーを目指す。																						
分類	必修	○	選択		配当年次	1年	学期	通年	○	前期		後期											
種別	総論																						
授業科目	服飾造形論Ⅰ					授業時間数	前期	15	後期	15	計	30											
担当教員	一明 豪																						
※実務家教員	○	アパレル衣料、雑貨の企画制作、舞台衣装制作、ブライダル小物・雑貨のオーダーメイド、テレビ番組スタイリスト等で培った実践的な企画・デザイン、縫製技術、衣服の取扱い等を活かし、指導する。																					
資格検定																							
授業概要	衣服制作において必要な用具の使用方法や縫製用具の基礎知識、素材の扱い方や付属材料、裁断縫製を身につけることを目標とする。また、人体の構造を把握し衣服制作するに当たり必要な計測の仕方を学ぶ。デザイナーや企画職に必要な仕様書や工程表も書けるよう理解を深め、1年次終了の際は企画書を作成する。																						
学習成果	① 縫製に関する機材や用具について、正しい使用方法の習得。 ② 裁断縫製に関する基本的な知識の習得。 ③ 人体の計測の仕方の習得。 ※ 衣服制作の基本となる知識・技術を習得。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)			1	定期試験結果		90	%	2	提出物/期限遵守		%										
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座① ●文化ファッション大系 服飾造形講座④ ●KFDオリジナル実習プリント配布																						

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1	衣服制作のための人体計測	正確に計測が出来るよう人体の各ポイントを把握し、理解を深める。
2	2	衣服制作のための用具と名称と使用方法	衣服制作に関する用具の基礎知識の習得。
3	3	ミシン・アイロン・特殊ミシンの基礎知識	衣服制作に関する用具の基礎知識の習得。
4	4	裁断・縫製の基礎知識1	地づめ・地直し・表裏の見分け方・布幅について、基本的な知識の理解を深める。
5	5	裁断・縫製の基礎知識2	地づめ・地直し・表裏の見分け方・布幅について、基本的な知識の理解を深める。
6	6	針と糸の種類と用途	針と糸と布地の最適な関係を知り、実際にソーイングで使用するアイテムと一緒に理解を深める。
7	7	縫製工程表/縫製仕様書の書き方	まずは見本を模写することから始め、基本的な工程表と仕様書が書けるようになる。
8	8	マーキング・柄あわせについて	縮尺のサンプルを用いながら、収集率が良くなるようなマーキングをする。地の目や柄でもきれいに合うよう同じく縮尺で理解を深める。ソーイング課題と合わせ、習得する。
9	9	副資材(ファスナー・ボタン)	ファスナーやボタンの用途にあった様々な種類を確認し、理解を深める。
10	10	副資材についての知識 (ファスナー・肩パット・留め具・伸び止めテープ)	ファスナーやボタンの用途にあった様々な種類を確認し、理解を深める。
11	11	人体の方位 (ボディライン入れ)	原型とボディの関係を理解し、9号ボディにボディラインテープを垂直水平に入れるようにする。
12	12	衣服制作においてのウール地の扱いについて	ウール地の特徴、扱い方について理解を深める。
13	13	仮縫い補整について説明・タイトスカート	タイトスカートを仮縫いした場合の修正方法の理解を深める。
14	14	芯地・裏地の種類と用途 目的と役割	芯地・裏地についての役割や目的の理解を深める。
15	15	まとめ	服飾造形の基礎知識の復習とまとめ。

後期 授業計画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1	トワルの基礎知識（ピン打ち・修正法）1	原型を使用しピン打ちと、その修正方法を習得する。
2	2	トワルの基礎知識（ピン打ち・修正法）2	原型を使用しピン打ちと、その修正方法を習得する。
3	3	トワルの基礎知識（ピン打ち・修正法）3	原型を使用しピン打ちと、その修正方法を習得する。
4	4	スーツ企画書/縫製工程表/縫製仕様書/芯貼り加工書1	ジャケットとスカートの1/4ファーストパターン、表地・裏地・芯地パターン、マーキング図、縫製工程表、縫製仕様書、裁断芯貼り加工指図書の作成を行い、企画稿の企画書が書けるよう、理解を深める。
5	5	スーツ企画書/縫製工程表/縫製仕様書/芯貼り加工書2	ジャケットとスカートの1/4ファーストパターン、表地・裏地・芯地パターン、マーキング図、縫製工程表、縫製仕様書、裁断芯貼り加工指図書の作成を行い、企画稿の企画書が書けるよう、理解を深める。
6	6	スーツ企画書/縫製工程表/縫製仕様書/芯貼り加工書3	ジャケットとスカートの1/4ファーストパターン、表地・裏地・芯地パターン、マーキング図、縫製工程表、縫製仕様書、裁断芯貼り加工指図書の作成を行い、企画稿の企画書が書けるよう、理解を深める。
7	7	スーツ企画書/縫製工程表/縫製仕様書/芯貼り加工書4	ジャケットとスカートの1/4ファーストパターン、表地・裏地・芯地パターン、マーキング図、縫製工程表、縫製仕様書、裁断芯貼り加工指図書の作成を行い、企画稿の企画書が書けるよう、理解を深める。
8	8	スーツ企画書/縫製工程表/縫製仕様書/芯貼り加工書5	ジャケットとスカートの1/4ファーストパターン、表地・裏地・芯地パターン、マーキング図、縫製工程表、縫製仕様書、裁断芯貼り加工指図書の作成を行い、企画稿の企画書が書けるよう、理解を深める。
9	9	スーツ企画書/縫製工程表/縫製仕様書/芯貼り加工書6	ジャケットとスカートの1/4ファーストパターン、表地・裏地・芯地パターン、マーキング図、縫製工程表、縫製仕様書、裁断芯貼り加工指図書の作成を行い、企画稿の企画書が書けるよう、理解を深める。
10	10	スーツ企画書/縫製工程表/縫製仕様書/芯貼り加工書7	ジャケットとスカートの1/4ファーストパターン、表地・裏地・芯地パターン、マーキング図、縫製工程表、縫製仕様書、裁断芯貼り加工指図書の作成を行い、企画稿の企画書が書けるよう、理解を深める。
11	11	スーツ企画書/縫製工程表/縫製仕様書/芯貼り加工書8	ジャケットとスカートの1/4ファーストパターン、表地・裏地・芯地パターン、マーキング図、縫製工程表、縫製仕様書、裁断芯貼り加工指図書の作成を行い、企画稿の企画書が書けるよう、理解を深める。
12	12	スーツ企画書/縫製工程表/縫製仕様書/芯貼り加工書9	ジャケットとスカートの1/4ファーストパターン、表地・裏地・芯地パターン、マーキング図、縫製工程表、縫製仕様書、裁断芯貼り加工指図書の作成を行い、企画稿の企画書が書けるよう、理解を深める。
13	13	スーツ企画書/縫製工程表/縫製仕様書/芯貼り加工書10	ジャケットとスカートの1/4ファーストパターン、表地・裏地・芯地パターン、マーキング図、縫製工程表、縫製仕様書、裁断芯貼り加工指図書の作成を行い、企画稿の企画書が書けるよう、理解を深める。
14	14	スーツ企画書まとめ	まとめ作業を行う。（反省、感想）
15	15	まとめ	1年間の資料ファイルのまとめを行う。
その他 (授業に際しての注意点)		日頃より衣服制作における機材や用具について、正確な名称を確認することを推奨する。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッショントレーニング科		1年
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッショントレーナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、パタンナーを目指す。				
分 類	必修	○	選択	配当年次	1 年
種 別	総論		授業方法	講義	○ 演習 ○ 実習
授業科目	ファッショントレーニング史		授業時間数	前期 10	後期
担当教員	溝口 希弥子		職業実践専門課程：企業との連携		
※実務家教員					
資格検定				必修	選択
授業概要	ファッショントレーニングはそれぞれの時代の政治・経済・文化と密接に関連しているという事を、「服装の歴史」を中心に理解を深める。衣服の起源から、古代・中世・近代・現代までの流れを理解することで、「繰り返す歴史」のありようを理解し、ファッショントレーニングが私たちの生活にどのように影響を与えていたのかを考える。また次代のファッショントレーニングを形作るのは自分たちである、という認識を持つようにしたい。				
学習成果	① 歴史を知る楽しさや意義を感じてもらう。 ② ファッショントレーニングは繰り返す、という流れを理解する。 ③ 自分の興味ある分野への知識を広げてもらう。 ※ ファッショントレーニングを創り上げる基礎となる服装史の流れを理解する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果	
			2	提出物/期限遵守	80 %
			3	独創性/習熟度	10 %
			4	意欲・授業態度	10 %
使 教 用 材	●文化ファッショントレーニング大系 服飾造形講座① ●KFDオリジナルプリント配布 ●文化学園服飾博物館刊 ヨーロピアンモード				

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	導入、古代（エジプト・ローマ・ギリシャ）、中世（ビザンティン・ゴシック・ルネサンス）	服装史の発展、服の役割、変遷の概要を理解する。
2	3-4	近世（18-19世紀市民革命と産業革命）、第1～第2帝政時代	政治、経済、文化が密接につながっていることを実感させる。
3	5-6	現代（1900～1910年代）	今のファッションにつながる20世紀の流れを理解する。
4	7-8	現代（1920～1950年代）	今のファッションにつながる20世紀の流れを理解する。
5	9-10	現代（1960～1990年代）と総論、まとめテスト実施	これから自分たちが生み出していくファッションの源泉を理解する。
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		授業意欲として日頃からコレクション雑誌等を「ファッション史」という視点で読む事を推奨する。講義内容に対しても積極的に質問をし、自己で理解することが望ましい。課題は、提出期限を厳守すること。	

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程 ファッションデザイン科 1年														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、バタンナーを目指す。														
分類	必修	<input checked="" type="radio"/>	選択		配当年次	1年	学期	通年		前期					
種別	総論					授業方法	講義	<input checked="" type="radio"/>	演習	実習					
授業科目	アパレル商品知識					授業時間数	前期	15	後期	計 15					
担当教員	松延 直明					職業実践専門課程：企業との連携									
※実務家教員															
資格検定	一般財団法人 日本ファッション教育振興協会主催：ファッション販売能力検定3級								必修	<input checked="" type="radio"/>					
授業概要	ファッション販売能力検定3級の商品知識を中心にファッションアイテムの知識を身に付ける。シルエット、ディテール、名称などの基本知識だけではなく、そのアイテムが生まれた時代背景などの関連知識から学ぶことでより造詣を深め、企画、販売などアパレルのどの分野においても通用するアイテム知識を習得する。														
学習成果	① 基本アイテムの知識習得。 ② ディテールの知識習得。 ③ サイズ表記（JIS規格）の知識習得。 ※ 衣服のデザイン知識とサイズ知識（JIS規格）の習得。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果 70 %		2	提出物/期限遵守 %		3	独創性/習熟度 %		4	意欲・授業態度 30 %	
使用教材	●一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：ファッション販売3級 ●KFDオリジナルプリント配布														

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	商品分類とサイズ知識	基本的商品分類を理解し、JIS規格をもとにしたサイズ表記の読み取りができるように進める。
2	3-4	スカートの知識、パンツの知識	主にボトムスに関するアイテム名と丈の名称といった基礎知識を基本的デザインをメインとして理解する。
3	5-6	シャツブラウスの知識、カラーの知識	シャツの基本アイテム名とディテール名を理解しつつ、カラーの種類も基本デザインを中心として理解する。
4	7-8	ワンピースの知識、シルエットの知識	ワンピースのアイテム名を押さえつつ、シルエットを理解することでデザイン面においても必要な知識を得る。
5	9-10	カット&ソーンの知識、インナーウェアの知識	カット&ソーンとインナーウェアの特性を理解する。
6	11-12	ニットウェア、ネックラインの知識	ニットウェアの特性を理解し、またそれにつながるディテールとしてネックラインの種類を理解する。
7	13-14	ジャケットの知識、コートの知識	アウターに関する知識をジャケット・コートと合わせて理解する。デザインだけではなく機能性についても触れる。
8	15	服飾雑貨知識	靴、バッグ、アクセサリーといったアパレル小物の知識を取り入れる。基本的なものに絞り、売り場における知識として役立てる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		各学生が授業ごとにアイテムサンプルを持参し、手元でアイテムサンプルを見ながら授業を受ける形が望ましい。	

授業科目等の概要																													
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン科 1年																												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、バタンナーを目指す。																												
分類	必修	○	選択		配当年次	1年	学期	通年		前期	○	後期																	
種別	総論						授業方法	講義	○	演習	△	実習																	
授業科目	アパレル素材 I						授業時間数	前期	30	後期		計 30																	
担当教員	一明 豪						職業実践専門課程：企業との連携																						
※実務家教員	○	アパレル衣料、雑貨の企画制作、舞台衣装制作、ブライダル小物・雑貨のオーダーメイド、テレビ番組スタイリスト等で培った実践的な企画・デザイン、縫製技術、衣服の取扱い等を活かし、指導する。																											
資格検定																													
授業概要	アパレル製品の企画、デザイン、縫製、販売に必要不可欠な知識である「テキスタイル」。1年次はその基礎知識として、繊維や糸からテキスタイルが出来るまで、ファッション動向を把握し、製品の管理や取り扱いに至るまでを幅広く学ぶ。そして実際に素材を扱いながら、テキスタイルへの理解を深め、手に取ったテキスタイルの素材名、組成、風合いなどをマスターし、そこから各分野（企画、デザイン、縫製、販売）に必要な判断が出来るようになることを目標とする。																												
学習成果	① 繊維の種類について理解する。 ② 織り、編み、加工について理解する。 ③ 繊維取り扱い表示記号について理解する。 ※ テキスタイルの使い方を提案できるスキルの習得。				成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)			1	定期試験結果	80	%																		
使用教材	●文化学園 文化事業局 テキスタイルハンドブック ●KFDオリジナルプリント配布																												

前期授業計画(4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1 1-2	アパレル素材とは、繊維とは、繊維の種類（天然繊維）（プリントNo. 1-5）		アパレル素材とは何かその重要性を説き、天然繊維の綿、麻について知り、その長所と短所について理解を深め、実際に手に取りながら感覚を覚える。
2 3-4	繊維の種類（天然繊維）、（化学繊維）（プリントNo. 6-10）		天然繊維の毛、綿、化学繊維のレーヨン、ポリエステル、キュプラについて知り、その長所と短所について理解を深め、実際に手に取りながら感覚を覚える。
3 5-6	繊維の種類（化学繊維）（プリントNo. 11-14）		化学繊維のアセテート、プロミックス、ポリエステル、ナイロン、ポリウレタン、アクリルについて知り、その長所と短所について理解を深め、実際に手に取りながら感覚を覚える。
4 7-8	繊維の特徴のまとめ（プリントNo. 15）		これまで学習したことと、空枠にテキストを埋め込む形で更に理解を深め、資料として残るようにまとめる。
5 9-10	糸とは布地とは（織物）（プリントNo. 16-19）		スパン糸、フィラメント糸、ガラ紗糸、強捻糸など、糸の構造を知り、布地になるとどうなるか実際の糸やテキスタイルを触り理解を深める。
6 11-12	布地とは（織物）（プリントNo. 20-21）		平織り、綾織りについて構造を知り、実際に横ってみることで更に理解を深める。
7 13-14	布地とは（織物）（プリントNo. 22）		朱子織りについて構造を知り、実際に横ってみることで更に理解を深める。
8 15-16	布地とは（編み物）、布地とは（レース、網地、ネット）（プリントNo. 23-26）		編み（ニット）について構造を知り、他のレース、網地、ネットについても理解を深める。
9 17-18	布地とは（加工）、素材感性（風合い）（プリントNo. 27-30）		布地の加工について理解を深め実際に手に取り確かめる。また、風合いと材質感は感性軸に当たるが感覚を認める。
10 19-20	柄（プリントNo. 31-32）		基本的な柄を配布プリントや実際のテキスタイルを見て理解を深める。
11 21-22	洗濯表示、染み抜き、ドライクリーニング、繊維取り扱い表示記号（プリントNo. 33-36）		染みについて理解をし、どう対処すべきかを学ぶ。また、取り扱い表示記号について理解を深めるが、古着も普及しているため旧JISについても学ぶ。各自の服に付いているタグも確認してみる。
12 23-24	素材感性（イメージ）		3大感性をもとに、イメージにあった素材を連動させ、理解を深める。これまで習得してきた内容が活かされる。
13 25-26	アパレル素材論まとめ（まとめプリントNo. 1-8）		これまでの学習の成果をまとめプリントを通して復習し、再度確認をする。
14 27-28	アパレル素材論まとめ解答（まとめプリントNo. 1-8）		これまでの学習の成果をまとめプリントを通して復習し、再度確認をする。
15 29-30	まとめ		半期のまとめを行う。
その他 (授業に際しての注意点)	授業を聞くだけではなく、スワッチや実際のアイテムや生地、糸などを手に取って確認することが大事である。それらの態度を成績評価に反映させる。		

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程	ファッションデザイン科	1年
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッショントレーナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、パッナーを目指す。		
分類	必修	○	選択
種別	総論		
授業科目	デザイン基礎		
担当教員	今村 大祐		
※実務家教員	○ アパレル企業の営業企画での実務経験及び国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級取得にて培ってきた、実務性の高い服飾形に関する知識を教授する。		
資格検定			
授業概要	視覚伝達としてのコミュニケーション・デザイン。生産デザインとしてのプロダクト・デザイン。環境・空間デザインとしてのスペース・エンパイラメント・デザイン。それらを通して私たちの生活にどれだけ多くのデザインが浸透しているかを知り、五感を使いアイデア発想のソースを探すこととする。後期では基本的な图形から発想した平面デザイン、移調の考え方をベースにした配色構成、1枚の紙から立体をデザインする立体構成を行い、色、物、形の視点から造形のバランスを整える技術を習得する。		
学習成果	① デザインの役割を理解する。 ② 五感を使った観察力の習得。 ③ 広い視野に基づくデザイン発想力の習得。 ※ 適切なデザインを導きだす指針となる知識の習得。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1 定期試験結果 2 提出物/期限遵守 3 独創性/習熟度 4 意欲・授業態度
使用教材	●KFDオリジナル実習プリント配布 ●クロッキーブック		

前期授業計画(4月-9月)

前期授業計画(4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	デザインとは何か(美について)	アパレルから離れた、デザインの仕組みの理解。
2	3-4	デザインの世界(観察力からのデザイン発想)	五感を使った観察の重要性、スケッチによる観察の仕方の習熟。
3	5-6	デザインと芸術	市場性を含めた、発想から形になる、という一連の流れへの理解。
4	7-8	デザインの起こり・西洋美術史	デザインの起こりを、産業革命以降の潮流から理解する。 西洋美術史の概略を理解し、デザイン発想に活かす基礎知識を習得する。
5	9-10	デザインと諸科学(デザインしたものには意味がある)、フォルム【そのデザインへの影響と相互関係】	観察からの発想、その転用や、より特徴的に形をとらえる、という事への理解習熟。
6	11-12	図形の基礎。丸・四角・三角	基本となる幾何学模様、丸、四角、三角。それぞれが象徴する意味を知り、平面構成のデザイン発想につなげる。
7	13-14	コンポジション基礎-対比・整列・シンメトリー・アシンメトリー・リズムの効果	構成における基本的理論の理解、習熟。
8	15-16	コンポジション-平面構成(点・線・面)1	平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。 また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。
9	17-18	コンポジション-平面構成(点・線・面)2	平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。 また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。
10	19-20	コンポジション-平面構成(点・線・面)3	平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。 また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。
11	21-22	作品に対するプレゼンテーション(合評会)1	作品プレゼンテーションの資料作成や演出についての理解、習熟。
12	23-24	デザインと伝統(植物観察) ウィリアム・モ里斯の世界1	自然美からの発想を、アーツアンドクラフツ運動、アールヌーボーの流れをウィリアム・モ里斯の作品を中心に理解する。
13	25-26	デザインと伝統(植物観察) ウィリアム・モ里斯の世界2	自然美からの発想を、アーツアンドクラフツ運動、アールヌーボーの流れをウィリアム・モ里斯の作品を中心に理解する。
14	27-28	日本の伝統美ジャポニズム 浮世絵・墨絵・構成力	ヨーロッパにおけるジャポニズム文化を中心に、文化や風土での発想の違いや、異文化の浸透、デザインにおける新規性の重要性を学ぶ。
15	29-30	日本の伝統美ジャポニズム 日本のもの作り・前期まとめ	ヨーロッパにおけるジャポニズム文化を中心に、文化や風土での発想の違いや、異文化の浸透、デザインにおける新規性の重要性を学ぶ。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは準備学習
1	1-2	コンポジション-平面構成(色彩)1	色彩計画を含めた、平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。
2	3-4	コンポジション-平面構成(色彩)2	色彩計画を含めた、平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。
3	5-6	コンポジション-平面構成(色彩)3	色彩計画を含めた、平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。
4	7-8	作品に対するプレゼンテーション(合評会)2	作品プレゼンテーションの資料作成や演出についての理解、習熟。
5	9-10	近代～現代デザインの流れ1(バウハウスから)	バウハウスを代表する近代デザインから現代デザインまでの流れを理解する。また異素材使いの立体作品について知る事で、評価に繋がる「ものづくり」を理解する。
6	11-12	近代～現代デザインの流れ2(バウハウスから)	バウハウスを代表する近代デザインから現代デザインまでの流れを理解する。また異素材使いの立体作品について知る事で、評価に繋がる「ものづくり」を理解する。
7	13-14	近代～現代デザインの流れ3(バウハウスから)	バウハウスを代表する近代デザインから現代デザインまでの流れを理解する。また異素材使いの立体作品について知る事で、評価に繋がる「ものづくり」を理解する。
8	15-16	コンポジション-立体構成1	色彩計画を含めた、立体で基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。与えられた条件でデザイン活動への理解習熟を促す。新規性の創造から、テキスタイルの作成を推奨する。
9	17-18	コンポジション-立体構成2	色彩計画を含めた、立体で基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。与えられた条件でデザイン活動への理解習熟を促す。新規性の創造から、テキスタイルの作成を推奨する。
10	19-20	コンポジション-立体構成3	色彩計画を含めた、立体で基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。与えられた条件でデザイン活動への理解習熟を促す。新規性の創造から、テキスタイルの作成を推奨する。
11	21-22	コンポジション-立体構成4	色彩計画を含めた、立体で基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。与えられた条件でデザイン活動への理解習熟を促す。新規性の創造から、テキスタイルの作成を推奨する。
12	23-24	作品に対するプレゼンテーション(合評会)3	作品プレゼンテーションの資料作成や演出についての理解、習熟。
13	25-26	作品に対する総評	プレゼンテーションを終えたのち、担当教員から全体作品への総評を行い、視野を広げる。
14	27-28	クリエーションにおいてのデザイン発想・リサーチについて	2年次に向けてデザインに取り組むにあたって、その発想への視点、テーマへのリサーチなどを、新規性、独自性、完成度を追求する前段で考える。
15	29-30	まとめ	各課題でのエスキースのまとめを行い、知識の覚え返しとともに、今後のクリエーションへ活用可能な資料の制作を行う。
その他 (授業に際しての注意点)	デザインの基礎的な部分を、色彩計画を含め、実習を通して理解する。同時に、与えられた条件でデザインを行い、正しく伝達するという実務としてのデザイン活動、プレゼンテーション活動についての基礎を学び、発想の活用を行う。		

授業科目等の概要																	
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン科 1年																
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、バタンナーを目指す。																
分類	必修	○	選択		配当年次	1年	学期	通年	○	前期		後期					
種別	デザイン						授業方法	講義	△	演習	△	実習					
授業科目	服飾デザイン I						授業時間数	前期	30	後期	60	計 90					
担当教員	堤 麻実子・一明 豪・岸川 真子						職業実践専門課程：企業との連携				○						
※実務家教員	○	一明：アパレル衣料、雑貨の企画制作、舞台衣装制作、ブライダル小物・雑貨のオーダーメイド、テレビ番組スタイリスト等で培った実践的な企画・デザイン、縫製技術、衣服の取扱い等を活かし、指導する。 岸川：OEMメーカー・レディースブランドの企画デザイナーおよび縫製工場の工場縫いの実践的な経験を活かし指導する。															
資格検定	一般社団法人 日本フォーマル協会：フォーマルスペシャリスト検定準2級										必修	○	選択				
授業概要	服飾デザインは「着る」ことに着目し、デザインすることを学ぶ。特に、造形的技術の3要素である「形・色・素材」に機能的価値を加えて構成する力を身に付ける演習を行う。また、五感を意識し行動する力、想像力を豊かにし創造性が刺激され、論理的に探究する能力を身に付けるため、日頃から行っている「リサーチブック」をもとに、アイデア発想に取り組む。また、これらの学んだことを職業実践に応用する。																
学習成果	① 観察するスキルを習得する。 ② 考えるスキルを習得する。 ③ 伝えるスキルを習得する。 ※ 感性を形にするスキルを習得する。						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%						
使用教材	●文化ファッション体系 服飾関連専門講座⑨ ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●一般社団法人 日本フォーマル協会：フォーマルウエアルールブック ●WWD ●コレクション雑誌 ●参考書籍							2	提出物/期限遵守	40	%						

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	マインドマップ	題を可視化し、アイデアが生まれる方法を理解し、よく観察し考える力を習得する。
2	3-4	服飾デザインの基礎 形態（シンメトリーとアシンメトリー）、点と線	服飾における直、線、面に注目する。対称、非対称を理解してデザインする力を習得する。
3	5-6	線の応用デザイン ジグザグデザイン	線を応用し、ジグザグデザインを提案する。
4	7-8	10代感性分類 イメージマップ作成	感性分類を理解し、さらに深めるためグラフィックとして構成する。その後、よく観察することで「伝えるスキル」を習得する。
5	9-10	ターゲット、オケージョン、ライフスタイル 1	服のデザインに欠かせないTOPに触れ、情報収集を行いデザインする力を習得する。
6	11-12	ターゲット、オケージョン、ライフスタイル 2	ターゲットに沿ったデザインを提案する。
7	13-14	ターゲット、オケージョン、ライフスタイル 3	ターゲットに沿ったデザインを提案する。
8	15-16	素材アイデア発想1	素材の様々な技法に触れ技法を習得する。
9	17-18	素材アイデア発想2	素材からデザインを提案する。
10	19-20	デザイナーの発想	デザイナーの発想に触れ、アイデア発想のテーマを深める。
11	21-22	アイデア発想 ドシエ1 リサーチ（実在するものからのインスピアイア）	テーマを捉え、掘り下げる形にする力を習得する。
12	23-24	アイデア発想 ドシエ2 参考資料収集	テーマを捉え、掘り下げる形にする力を習得する。
13	25-26	アイデア発想 ドシエ3 コンセプトワーク	テーマを捉え、掘り下げる形にする力を習得する。
14	27-28	アイデア発想 ドシエ4 イメージマップ	テーマを捉え、掘り下げる形にする力を習得する。
15	29-30	まとめ	半期のまとめを行う。

後期 授業計画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-4	アイデア発想 ドシエ5 コンセプトの深掘り、テキスタイル	テーマを捉え、振り下げて形にする力を習得する。
2	5-8	アイデア発想 ドシエ6 アプローチ デザイン画の原案・デザイン展開	テーマを捉え、振り下げて形にする力を習得する。
3	9-12	アイデア発想 ドシエ7 デザイン画10体	テーマを捉え、振り下げて形にする力を習得する。
4	13-16	商品企画とは・商品企画の流れ	アパレル企業における商品企画の考え方、商品企画の流れを知る。
5	17-20	ブランドリサーチ・分析	既存国内アパレルメーカーのリサーチ及び、ベンチマークを通して、ブランドコンセプト、ターゲット、グレード、商品構成を分析する。
6	21-24	シーズンMD（春夏）立案	ブランドコンセプト、ターゲット、グレードに合わせた、次春夏シーズンの軸を立案する。
7	25-28	シーズンテーマ、コーディネートの立案	シーズンテーマに合わせたコーディネートイメージを立案。 生活行事・季節を含めた商品構成や素材・色展開を行う。
8	29-32	商品企画・デザイン出し・仕様書作成①	シーズンごとの商品構成に合わせて、色・素材出し、デザイン出しを行い、企画書にまとめる。
9	33-36	商品企画・デザイン出し・仕様書作成②	シーズンごとの商品構成に合わせて、色・素材出し、デザイン出しを行い、企画書にまとめる。
10	37-40	職業実践専門課程 企業向けデザイン提案1-2	市場調査をもとにデザインし、桂製仕様まで理解し伝える力を習得する。
11	41-44	職業実践専門課程 企業向けデザイン提案3-4	市場調査をもとにデザインし、桂製仕様まで理解し伝える力を習得する。
12	45-48	職業実践専門課程 企業向けデザイン提案5-6	市場調査をもとにデザインし、桂製仕様まで理解し伝える力を習得する。
13	49-52	アイデア発想 ポートフォリオ1 ドシエをまとめる	テーマに基づいたリサーチをまとめ整理する。
14	53-56	アイデア発想 ポートフォリオ2 ドシエをまとめる	テーマに基づいたリサーチをまとめ整理する。
15	57-60	まとめ	半期のまとめを行う。
その他 (授業に際しての注意点)		アイデア帳を常に持ち歩き、五感を刺激する習慣を身に付ける。	

授業科目等の概要												
学科	服飾専門課程						ファッションデザイン科 1年					
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではファッションデザインに関する知識と技術を学び、クリエイティブで発想力のある人材育成を目指す。将来は企業デザイナーを目指し、マーケティング力とプレゼンテーション力を身につける。											
分類	必修	<input checked="" type="radio"/>	選択		配当年次	1 年	学期	通年	<input checked="" type="radio"/>	前期		後期
種別	デザイン						授業方法	講義	<input checked="" type="radio"/>	演習	<input checked="" type="radio"/>	実習
授業科目	ファッション色彩 I						授業時間数	前期	30	後期	30	計 60
担当教員	平井 優子						職業実践専門課程：企業との連携					
※実務家教員	<input checked="" type="radio"/>	財団法人日本色彩研究所色彩指導者であり、文部省認定色彩能力検定1級をはじめ各種色彩検定で1級を取得。中学校や専門学校での講師経験を活かし色彩の基礎知識、配色を指導。										
資格検定	一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：ファッション色彩能力検定3級										必修	<input checked="" type="radio"/>
授業概要	ファッション業界の各職種で必要な感性スキル「色＝カラーコーディネート」。1年次は業界で必要とされる基礎知識、色を使うための基本的スキル（三属性の理解）（物理的・心理的側面の理解）（色が齎すコンセプトの考え方）（業界での色の役割）を習得することを狙いとする。実施方法は、講義及び、配色実習（カラーカード）を通して、ファッション色彩検定3級合格レベルの知識習得を目標とする。 ※前・後期イレギュラーな回数で行うが、通年で換算することとする。											
学習成果	① 色の効果、役割を理解する。 ② 色を見分け、色の三属性を理解し、表示できるスキルを取得。 ③ 色の特性を理解し、配色の効果を表現するスキルを取得。 ※ 色の使い方を提案できるスキルの習得。						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果	20	%
使用教材	●一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：ファッション色彩【I】 ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●JIS BASIC COLOR140											

前期授業計画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	生活における色彩の働き「生活の中の色彩」「色彩と価値観」「色彩の機能」	色が生活中でどのような意味を持ちどのように効果を与えているのか、また、色が人間に働きかける力や色彩の機能を理解する。
2	3-4	ファッションにおける色彩の役割「服装と色彩」「ファッションと色彩」	ファッションにおける色彩の機能的な役割と心理的な役割や色彩の表現的な役割を理解する。
3	5-6	色の三属性「色を体系的にとらえるために」「有彩色と無彩色」	色を取り扱うために、演習を通して色を整理し体系的にとらえる。
4	7-8	色の三属性「色相(Hue)」①	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「色相＝色み」の基本を、色みを見分ける演習を通して理解を深める。
5	9-10	色の三属性「色相(Hue)」②	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「色相＝色み」の基本を、色みを見分ける演習を通して理解を深める。
6	11-12	色の三属性「明度(Value)」	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「明度＝明るさの違い」の基本を色の明るさを、演習を通して体感し理解を深める。
7	13-14	色の三属性「彩度(Chroma)」①	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「彩度＝鮮やかさの違い」の基本を色の強さを、演習を通して体感し理解を深める。
8	15-16	色の三属性「彩度(Chroma)」②	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「彩度＝鮮やかさの違い」の基本を色の強さを、演習を通して体感し理解を深める。
9	17-18	ヒュー&トーン	色を感覚的に利用する上、「Hue&Tone」は必須である。形式的にトーンの配置とトーンのイメージを通して理解を深める。
10	19-20	色の成り立ちと光と色	色の成り立ちに必要な要素と物理的、心理的な色の理解。光の性質や物体離と光源色を理解する。
11	21-22	三原色と混色	色料の三原色と色光の三原色の特徴と混色について演習を通して理解する。
12	23-24	眼球の仕組	眼球の仕組みを知り、色を感じる仕組みを理解する。
13	25-26	色彩と心理「色の見え」①	隣接された色がどのように見えるのか色の相対的な現象を理解し、配色効果を知る。
14	27-28	色彩と心理「色の見え」②	隣接された色がどのように見えるのか色の相対的な現象を理解し、配色効果を知る。
15	29-30	覚え返し (半期のポイントをおさらい)	ノートのまとめをはじめ、受講した内容を再度おさらい。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	色彩の感情効果①	三属性やトーンごとの色のイメージや感情効果を理解し、カラーコーディネートに活かせる知識を習得する。
2	3-4	色彩の感情効果②	三属性やトーンごとの色のイメージや感情効果を理解し、カラーコーディネートに活かせる知識を習得する。
3	5-6	配色の基礎	配色とは？類似の調和と対照の調和を理解する。
4	7-8	配色の基礎「色相を基準にした配色」	配色の基本でもある色相を基準にした配色効果を体感し理解する。
5	9-10	配色の基礎「トーンを基準にした配色」①	配色の基本でもあるトーンを基準にした配色効果を体感し理解する。
6	11-12	配色の基礎「トーンを基準にした配色」②	配色の基本でもあるトーンを基準にした配色効果を体感し理解する。
7	13-14	配色の基礎「色相とトーンを基準にした配色」①	実際に配色する上で、色相とトーンの二つの要素を組み合わせた配色パターンを理解する。
8	15-16	配色の基礎「色相とトーンを基準にした配色」②	実際に配色する上で、色相とトーンの二つの要素を組み合わせた配色パターンを理解する。
9	17-18	色彩構成の基礎「安定と変化」	配色の「構成」を扣り、三属性を視点に言いたい安定と変化の構成を理解する。
10	19-20	色彩構成の基礎「基調色と配合色」	色彩構成の基本的な考え方である「基調色と配合色」を理解する。 コレクション雑誌等でどのような色彩構成が使われているのかを日頃から意識する。
11	21-22	色彩構成のテクニック①	色彩構成の様々なテクニックを理解する。 コレクション雑誌等でどのような色彩構成が使われているのかを日頃から意識する。
12	23-24	色彩構成のテクニック②	色彩構成の様々なテクニックを理解する。 コレクション雑誌等でどのような色彩構成が使われているのかを日頃から意識する。
13	25-26	ファッション産業における色彩の役割①	ファッション産業における色彩の役割を理解し、企画、デザイン、染色、販売する上で意図的に色彩を活用できるようにする。
14	27-28	ファッション産業における色彩の役割②	ファッション産業における色彩の役割を理解し、企画、デザイン、染色、販売する上で意図的に色彩を活用できるようにする。
15	29-30	覚え返し（半期のポイントをおさらい）	ノートのまとめをはじめ、受講した内容を再度おさらい。
その他 (授業に際しての注意点)		○授業意欲として日頃からコレクション雑誌等を「色」という視点で見読する事を推奨する。講義内容に対しても、わからない事は積極的に質問をし、各自理解することが望ましい。 ○授業毎に配布される課題は、提出期限を厳守すること。また、採点後、再提出の際、何を見落としていたのかを理解し、積極的に質問し改善する事が望ましい。必要教材（配色カード）を忘れると受講困難になるので注意が必要である。	

授業科目等の概要																							
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン科 1年																						
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッショントレーナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、パタンナーを目指す。																						
分類	必修	○	選択	配当年次	1年	学期	通年	○	前期		後期												
種別	デザイン																						
授業科目	ドローイング I																						
担当教員	舞田 章子																						
※実務家教員	○	他校講師ならびに自身のコンクール入賞経験を経て評価を得ている。ドローイングの基礎力を伝授する。																					
資格検定																							
授業概要	人体のプロポーションを理解し基礎力につけるため、短時間で特徴を掴むクロッキーを常に行い、平面画および素材表現に必要な基本的な着彩を学習する。1年次では基本的な描き方の練習を積みながら洋服の構造を読み取り、絵で表現する力を身につけることを目的とする。																						
学習成果	① 人体のプロポーションを理解する。 ② ボディバランスを理解し、様々なポージングの描き方を習得する。 ③ ドローイングに必要な画材を使用し、基本的な着彩方法を学ぶ。 ※ 基礎能力を固めデザインを伝える事が出来るようとする。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		2	提出物/期限遵守		80	%												
使用教材	●KFDオリジナル実習プリント配布 ●ドローイングセット ●コレクション雑誌																						

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	人体のバランスの法則／線の練習	人体のバランスを8頭身で理解し、鉛筆を使用し線に慣れる。
2	3-4	ボディの描き方（女性）	ヌードボディを描き、人体のプロポーションを理解する。
3	5-6	顔と髪の描き方（女性）／陰影の入れ方（顔）	顔と髪の表現方法を習得する。
4	7-8	様々なボディバランス	様々なポージングを描ける事を習得する。
5	9-10	トレースの仕方／陰影の入れ方（ボディ）	基礎的なトレースの仕方を習得し、鉛筆の強弱で描く事により陰影の付け方を習得する。
6	11-12	アウトラインの描き方／シルエットの描き方	服のシルエットを把握し、ボディに描けるようにする。
7	13-14	平面画の描き方	デザイナーに必須である、平面画の描き方を学ぶ。
8	15-16	ドレープの描き方／平面画の描き方	布地の柔らかさの特性を描けるようになる。また、前回に引き続き平面画の描き方を習得する。
9	17-18	仕上げ線の入れ方	仕上げをする、ペン入れの仕方を学ぶ。
10	19-20	色鉛筆の使い方	色鉛筆の基礎的な描き方を習得する。
11	21-22	文化スタイル画下書き	文化服装学院連鎖校ファッショントレーニングコンクールの下書きを行う。初めてのコンテストに向けて挑戦する。
12	23-24	文化スタイル画着彩	文化服装学院連鎖校ファッショントレーニングコンクールの着彩を行う。初めてのコンテストに向けて挑戦する。
13	25-26	文化祭作品1	前期に学んだことを活かし、文化祭展示作品にむけて下書き、ペン入れ、着彩を行う。
14	27-28	文化祭作品2	前期に学んだことを活かし、文化祭展示作品にむけて下書き、ペン入れ、着彩を行う。
15	29-30	文化祭作品3／まとめ	前期に学んだことを活かし、文化祭展示作品にむけて下書き、ペン入れ、着彩を行う。

後期 授業計画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	透明水彩絵の具の塗り方	基礎的な水彩画の着彩方法を習得する。筆の使い方も学ぶ。
2	3-4	不透明水彩絵の具の塗り方	不透明水彩の特徴を知り、絵の具の塗り方を習得する。
3	5-6	パステルの塗り方	パステルの特徴を知り、パステルの塗り方を習得する。
4	7-8	素材表現1	薄物から、毛足の長い素材の描き方を習得する。
5	9-10	素材表現2	薄物から、毛足の長い素材の描き方を習得する。
6	11-12	柄表現1	チェック・ヒョウ柄・レースなどの特殊素材の柄の描き方を身に付ける。
7	13-14	柄表現2	チェック・ヒョウ柄・レースなどの特殊素材の柄の描き方を身に付ける。
8	15-16	マーカーの描き方	マーカーの特徴を知り、絵の具の塗り方を習得する。
9	17-18	スーツの下書き1	ソーリングで制作する、スーツを描く。着用したものと平画画を描く。
10	19-20	スーツの下書き2	ソーリングで制作する、スーツを描く。着用したものと平画画を描く。
11	21-22	スーツの下書き3	ソーリングで制作する、スーツを描く。着用したものと平画画を描く。
12	23-24	スーツ着彩1	上記で描いた下絵の着彩を行う。
13	25-26	スーツ着彩2	上記で描いた下絵の着彩を行う。
14	27-28	スーツ着彩3／ボディバランステスト	上記で描いた下絵の着彩を行う。また、1年間の最終確認としてボディバランスが把握出来ているかの確認テストを行う。
15	29-30	ファイル整理／まとめ	1年間上げてきた絵をファイリングし、復習も兼ねて見直す。
その他 (授業に際しての注意点)		ドローイングは毎日描く事が好ましい。ボディバランスは描いた分技術は上達し、スピードも上がる。	

授業科目等の概要																					
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン科 1年																				
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッショントレーナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、バタンナーを目指す。																				
分類	必修	○	選択		配当年次	1年	学期	通年	○	前期		後期									
種別	パソコン				授業方法	講義	△	演習	○	実習	○	実習									
授業科目	グラフィック I				授業時間数	前期	30	後期	30	計	60										
担当教員	村川 俊樹				職業実践専門課程：企業との連携																
※実務家教員	○	WebデザイナーとしてWebデザイン・グラフィックデザイン・企画業務で培ってきたデザイン・企画の基礎知識と実践的なデザイン・スキルを教授する。皮革製品のオリジナルブランドを立ち上げ、企画・製造・販売をした業務経験より、皮革製品の川上～川下の知識と実践的なデザイン・スキルを教授する。																			
資格検定																					
授業概要	Adobe Photoshop（ラスター）を使い、テーマにあった効果的な画像処理（色調補正・画像切り抜き・フィルタ効果・描画モード等）や自分の思い描くイメージマップ作成などの演習を通じグラフィックデザインの基礎を学ぶ。またAdobe Illustrator（ベクター）を理解し、デザインをして行くための基礎を中心に授業を進める。アイテムの平面画・柄・DM・ポスターを描くための基礎力を身に付ける。																				
学習成果	①	Adobe Photoshopの基本操作方法の習得。				成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%											
	②	Adobe Illustratorの基本操作方法の習得。					2	提出物/期限遵守		70	%										
	③	平面的なヴィジュアル表現（グラフィックデザイン）方法の習得。					3	独創性/習熟度		15	%										
	※	グラフィックデザインの習得。					4	意欲・授業態度		15	%										
使用教材	●コレクション雑誌・ファッション雑誌 ●KFDオリジナルデータ配布																				

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	グラフィックの基本 【グラフィックの基礎知識とAdobe Photoshopの基礎知識】	PC (MAC) の基礎知識と基本操作及びグラフィックの基礎知識の習得、及び Adobe Photoshopのインターフェイスと基礎知識の習得。ベーシックデータ (オリジナル資料) 配布。
2	3-4	選択ツール・スキヤー 【なげなわ・多角形ツール・ガイド・解像度理解】	まずは楽しくAdobe Photoshopを学ぶ為に扱いやすいツールを使いオリジナルMAPを作成し、画像取込と解像度の理解を深める。各自データ (雑誌) 持参。
3	5-6	合成加工【レイヤーの理解 / 自動選択・クイック選択・切り抜きツール】	平面と立方体を用い、レイヤーの重なりの理解を深める。コントラストの差を利用し、選択できる範囲の理解を深める。ベーシックデータ (オリジナル資料) 配布。
4	7-8	パスの基本操作 / ペンツール【アンカーポイント・セグメント】	ペンツールに触れペンツールの基本操作であるベジェ曲線の作成方法の理解を深める。ベーシックデータ (オリジナル資料) 配布。各自データ (雑誌) 持参。
5	9-10	パスの理解 / ペンツール【アンカーポイント・セグメント】	ペンツールに触れペンツールの基礎であるパス・アンカーポイント・セグメント・ハンドルの操作の理解を深める。各自データ (雑誌) 持参。
6	11-12	パスの理解応用 / ペンツール【アンカーポイント・セグメント】	画像加工を通してペンツールを駆使して、自在に切り抜き・トーステストを行い技術向上を図る。各自データ (雑誌) 持参。
7	13-14	合成加工【オリジナルグラフィック作品制作】	オリジナルのグラフィック作品制作を通じAdobe Photoshopの理解を深め、技術向上を図る。各自データ (雑誌) 持参。
8	15-16	合成加工【スタンプ・スポット修正ブラシツール】	画像の修正が出来るツールを用い、画像修正の基礎の理解を深める。各自データ (雑誌) 持参。
9	17-18	ブラシ基礎【ブラシツールの基本操作】	ブラシツールを使いブラシの種類の理解・基本的な着彩方法・画像への加工の理解を深める。各自データ (雑誌) 持参。
10	19-20	フィルタの基礎【フィルタツールの基本操作】	様々なフィルタやフィルターギャラリーを使い多様な効果を演出し、リアルな素材表現 (布・壁等) の作成方法の理解を深める。各自データ (雑誌) 持参。
11	21-22	文字ツール【文字ツールの基本操作】	文字ツールを用い基礎的な文字の入力から、文字の横書きや文字のスタンプの作成方法、立体物を作成するペベルとエンボスの作成方法の理解を深める。各自データ (雑誌) 持参。
12	23-24	色調補正【色調補正の基本操作】	スキャナした画像を用い、色相・明度・彩度の変更方法の理解を深める。各自データ (雑誌) 持参。
13	25-26	色調補正【色調補正の理解と応用】	スキャナした画像を用い、色の置き換え・カラーバランスの調整・特定色域の変更方法の理解を深める。各自データ (雑誌) 持参。
14	27-28	描画モード【描画モードの基本操作】	レイヤーの合成方法の基礎である描画 (合成色・基本色・結果色) を変更する方法の理解を深める。ベーシックデータ (オリジナル資料) 配布。各自データ (雑誌) 持参。
15	29-30	合成加工・まとめ【オリジナルグラフィック作品作成】	オリジナルのグラフィック作品制作を通じAdobe Photoshopの理解を深め技術向上を図る。各自データ (雑誌) 持参。まとめを行う。

後期授業計画(10月~3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	Adobe Illustratorの導入・基礎知識【塗りと線】	Adobe Illustratorの体験、基本操作及び基礎知識を学び、インターフェースの把握とベクトルデータへの理解を深める。ベーシックデータ配布。
2	3-4	パスの基礎【ペン・長方形・グリッドツール・ガイド】1	ペンツールに触れペンツールの基本操作であるベジェ曲線の作成方法の理解を深める。ベーシックデータ配布。
3	5-6	パスの理解【ペン・長方形・グリッドツール・ガイド】2	アルファベットのトレースを通じ、ペンツールを駆使してベジェ曲線の作成方法の技術向上を図る。ベーシックデータ配布。
4	7-8	パスの応用(パスファインダ・整列)【オブジェクトの合体・分割・整列】	パスファインダーを通じ平面図作成の基礎となるオブジェクトの合体・分割方法の理解を深める。整列ツールを通じ企画書作成時の表記や文字レイアウト時の文字揃えや配図整列の方法の理解を深める。
5	9-10	パスで描くトレース(タイトスカート)【トレースの基本操作】	平面図アイテムトレースを通じベジェ曲線作成の技術向上を図り、パスファインダーの基本操作である合体・分割の理解を深める。ベーシックデータ配布。
6	11-12	パスで描くトレース(パンツ)【トレースの基本操作】	平面図アイテムトレースを通じベジェ曲線作成の技術向上を図り、パスファインダーの基本操作である合体・分割の理解を深める。ベーシックデータ配布。
7	13-14	パスで描くトレース(Tシャツ・ラウンドネック)【トレースの基本操作】	平面図アイテムトレースを通じベジェ曲線作成の技術向上を図り、パスファインダーの基本操作である合体・分割の理解を深める。ベーシックデータ配布。
8	15-16	パスで描くトレース(Tシャツヘンリーネック)【トレースの基本操作】	平面図アイテムトレースを通じベジェ曲線作成の技術向上を図り、パスファインダーの基本操作である合体・分割の理解を深める。ベーシックデータ配布。
9	17-18	パスで描くトレース(シャツフロント)【トレースの基本操作】	平面図アイテムトレースを通じベジェ曲線作成の技術向上を図り、パスファインダーの基本操作である合体・分割の理解を深める。ベーシックデータ配布。
10	19-20	パスで描くトレース(シャツバック)【トレースの基本操作】	平面図アイテムトレースを通じベジェ曲線作成の技術向上を図り、パスファインダーの基本操作である合体・分割の理解を深める。ベーシックデータ配布。
11	21-22	パスで描くトレース(ジャケットフロント)【トレースの基本操作】	平面図アイテムトレースを通じベジェ曲線作成の技術向上を図り、パスファインダーの基本操作である合体・分割の理解を深める。ベーシックデータ配布。
12	23-24	パスで描くトレース(ジャケットバック)【トレースの基本操作】	平面図アイテムトレースを通じベジェ曲線作成の技術向上を図り、パスファインダーの基本操作である合体・分割の理解を深める。ベーシックデータ配布。
13	25-26	企画書作成(Adobe Photoshop連動・文字ツール)【各自企画書作成】	Adobe Photoshopで画像加工・画像切り抜きをし、Adobe Illustratorで表作成・文字レイアウトを行い企画書を仕上げ基本操作の理解と技術向上を図る。各自データ(手書きデザイン)持参。
14	27-28	企画書作成(Adobe Photoshop連動)【各自企画書作成】1	Adobe Photoshopで画像加工・画像切り抜きをし、Adobe Illustratorで表作成・文字レイアウトを行い企画書を仕上げ基本操作の理解と技術向上を図る。各自データ(手書きデザイン)持参。
15	29-30	企画書作成(Adobe Photoshop連動)【各自企画書作成】2、まとめ	Adobe Photoshopで画像加工・画像切り抜きをし、Adobe Illustratorで表作成・文字レイアウトを行い企画書を仕上げ基本操作の理解と技術向上を図る。各自データ(手書きデザイン)持参。年間のまとめを行う。
その他 (授業に際しての注意点)		授業意欲として日頃からファッション雑誌やWebページ等を「グラフィック」という視点で「見る」事を推奨する。講義内容に対しても積極的に質問をし、自己で理解することが望ましい。授業毎に課される制作物は、期限内制作を厳守すること。また、採点後、再提出の際、何を見落としていたのかを理解し、また積極的に質問し改善する事が望ましい。必要教材(持参するデータ)を忘れる受講困難になるので注意が必要である。	

授業科目等の概要												
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン科 1年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、バタンナーを目指す。											
分類	必修	<input type="radio"/>	選択		配当年次	1年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期		後期
種別	服飾造形				授業方法	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="radio"/>	
授業科目	パターンメーリング I				授業時間数	前期	120	後期	135	計	255	
担当教員	一明 豪・岸川 真子				職業実践専門課程：企業との連携							
※実務家教員	<input type="radio"/>	一明：アパレル衣料、雑貨の企画制作、舞台衣装制作、ブライダル小物・雑貨のオーダーメイド、テレビ番組スタイリスト等で培った実践的な企画・デザイン、縫製技術、衣服の取扱い等を活かし、指導する。 岸川：OEMメーカー・レディースブランドの企画デザイナーおよび縫製工場の工場縫いの実践的な経験を活かし指導する。										
資格検定	一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：パターンメーリング技術検定試験3級								必修	<input type="radio"/>	選択	
授業概要	アパレル企業、企画者に適応したパターンのとらえ方を習得する。パターン制作の作図理論から始まり、各種アイテム、ディテールの基本作図、各種シルエットの展開方法やパターン操作を学ぶ。また、工業用パターンを作る上で必要な知識と、企画に基づく知識を身につける。後期はパターンメーリング技術検定3級に合格することを目標とする。											
学習成果	① 基本的な軽衣料の作図や展開方法を習得する。 ② 工業用パターンについて理解を深める。 ③ パターンメーリング技術検定3級取得。 ※ アパレル企業デザイナーに必要なパターンの基礎スキルを習得。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)			1	定期試験結果	50	%	2	提出物/期限遵守	20	%
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④ ●作図道具一式 ●一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：パターンメーリング技術検定試験3級ガイドブック ●KFDオリジナル実習プリント配布											

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)				授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-8	線の引き方、エプロン1/4作図、縫い代のつけ方1/4、エプロン実物作図、キュロット1/4作図・縫い代1/4・実物作図		定規の使い方、1/4、1/2格定規の目盛りの読み方を理解する。
2	9-16	原型とは、衣料パターン表示記号、原型操作（ダーツの分割）		原型の各部名称について把握し、胸ぐせダーツ、肩ダーツ移動について理解する。
3	17-24	タイトスカート1/2作図		スカートの基本であるタイトスカートの作図を通して、ダーツやヒップのゆとり、締まり等、スカート作図の考え方を理解する。
4	25-32	スカート展開（セミタイト、フレア、ペグトップ、ヒップボーン、ゴアード、ギャザー、ティアード）		タイトスカートから様々なデザインへ展開する。1つのアイテムから展開する方法を学ぶ。
5	33-40	シャツ基本型（シャツブラウス1/4：シャツカラー、セットインスリーブ）		基本のセットインスリーブとシャツカラーについて理解する。
6	41-48	シャツ基本型（シャツブラウス1/4：台衿付シャツカラー、シャツスリーブ）		基本のシャツスリーブと台衿付きシャツカラーについて理解する。
7	49-56	シャツブラウス1/2縫い代付け、前立ての種類と仕様		シャツブラウスの縫い代の付け方、裏なしの縫い代角処理を理解する。前立ての種類と仕様の理解を深める。
8	57-64	（制作物の衿を含む）衿各種（スタンド、フラット、オープン、タイ・ボー、制作物の衿を含む）		衿の各デザインを縮尺で作図し、理解を深め、オリジナルシャツへ応用する。
9	65-72	シャツブラウス実物作図、縫い代付け1		オリジナルシャツデザインを実物作図へ落とし込む。ドロップショルダー、ヨーク、前立てなどの理解を深める。
10	73-80	シャツブラウス実物作図、縫い代付け2		オリジナルシャツデザインを実物作図へ落とし込む。ドロップショルダー、ヨーク、前立てなどの理解を深める。
11	81-88	ワンピース1/4作図、ワンピース実物作図、縫い代付け、ワンピース基本形		ワンピースの襟足作図をし原型を据えてパターンを作図する仕方を習得する。
12	89-96	ワンピースの展開（フィット・パネル・プリンセス・テント・ハイウェスト・ローエスト）衿ぐり各種（U・V・スクエア・ポート）		ワンピースの基本型をもとに色々なデザインに展開することで、企業パターンナーに近いスローパーからのパターン展開方法を学ぶ。
13	97-104	袖各種（パフ・フレア・カフス・キャップ）		袖原型を使用し、袖の各デザインを縮尺で作図し、理解を深め、文化祭作品に応用する。
14	105-112	文化祭作品1/4作図、実物作図、型出し		文化祭のオリジナルワンピースのデザインのパターン修正をし、シルエット出しを行う。その後、工業用パターンを作成する。半端のまとめを行う。
15	113-120	文化祭作品実物パターン修正、型出し確認、まとめ		

後期 授業計画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-9	文化祭作品実物パターンチェック、工業用パターン	文化祭のオリジナルワンピースのデザインの工業用パターンを作成する。
2	10-18	裏付タイトスカート表地・裏地1/2縫い代、裏付タイトスカート実物作図、縫い代付け1	縮尺で作図したノートをもとに実物作図と工業用パターンを作成する。
3	19-27	裏付タイトスカート表地・裏地1/2縫い代、裏付タイトスカート実物作図、縫い代付け2	縮尺で作図したノートをもとに実物作図と工業用パターンを作成する。
4	28-36	パターンメーキング技術検定実技対策1	パターンメーキング技術検定3級取得へ向けて、筆記対策と実技対策を行う。筆記対策ではテキストを使用し、実技対策では本番を想定したトライアルを計4回行うことで合格率100%を目指す。
5	37-45	パターンメーキング技術検定実技対策2	パターンメーキング技術検定3級取得へ向けて、筆記対策と実技対策を行う。筆記対策ではテキストを使用し、実技対策では本番を想定したトライアルを計4回行うことで合格率100%を目指す。
6	46-54	裏付ジャケット（パネルライン・プリンセスライン）、1/2作図1	4面構成のジャケットを作図し、基本的なジャケットパターンを理解する。
7	55-63	裏付ジャケット（パネルライン・プリンセスライン）、1/2作図2	4面構成のジャケットを作図し、基本的なジャケットパターンを理解する。
8	64-72	裏付ジャケット表衿展開1/2、見返し展開1/2、裏パターン1/2	制作する生地の厚みに合わせて展開を行う。裏パターン作成の考え方を理解する。
9	73-81	2枚袖1/2作図、いせ計算仕方	2枚袖の考え方を理解し、いせ計算の仕方を習得する。
10	82-90	ポケット1/2作図（フラップ）、裏付ジャケット実物作図（二枚袖・ポケット）	ポケットの作図で構造を理解する。2枚袖の実物作図をする。
11	91-99	裏付ジャケットパターンチェック、縫い代（直角処理）	直角処理の仕方を習得し、縫い代への理解を深める。
12	100-108	裏付ジャケット裏地工業用パターン作成、裏付ジャケット実物、縫い代つけ	裏地パターンの理解を深め、工業用パターンを作成する。
13	109-117	裏付きジャケット、型出し	身頃にあった捨の作図を型出しを通して確認し、理解を深める。
14	118-126	裏付ジャケット裏地工業用パターン作成、裏付ジャケット実物、縫い代つけ	裏地パターンの理解を深め、工業用パターンを作成する。
15	127-135	復習・まとめ（ジャケット）	ジャケットのパターンを復習し、2年次に向けて理解を深める。半期のまとめを行う。
その他 (授業に際しての注意点)		講義では、できるだけ丁寧にノートをとり、積極的に質問をし、授業に参加することが望ましい。パターンの引き方の手順、考え方、定規の使い方等のノートを取り、自ら復習することで理解がさらに深まる。実物制作では、パターンを理解し素早く引けるよう、日頃からの復習が必要である。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッショントレーニング科		1年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではファッショントレーニングに関する知識と技術を学び、クリエイティブで発想力のある人材育成を目指す。将来は企業デザイナーを目指し、マーケティング力とプレゼンテーション力を身につける。																
分 類	必修	<input checked="" type="radio"/>	選択	配当年次	1 年												
種 別	服飾造形		授業方法	講義	<input checked="" type="radio"/> 演習 <input type="radio"/> 実習												
授業科目	ドレーピング I		授業時間数	前期 8	後期 8 計 16												
担当教員	一明 豪		職業実践専門課程：企業との連携														
※実務家教員	<input checked="" type="radio"/>	アパレル衣料、雑貨の企画制作、舞台衣装制作、ブライダル小物・雑貨のオーダーメイド、テレビ番組スタイリスト等で培った実践的な企画・デザイン、縫製技術、衣服の取扱い等を活かし、指導する。															
資格検定					必修 <input type="radio"/> 選択 <input checked="" type="radio"/>												
授業概要	頭の中で思い描くデザインを布を扱い表現できる技術、「ドレーピング」。基本の布目の読み取り、シルエットの構成、量感、フィット感を理解する事を目的とする。立体裁断は着心地のよい機能性を伴う良いパターンにする力が必要である。																
学習成果	① シーチングの地の目を読み取る力を習得。 ② 伸とりの入った無理のないシルエットを表現するスキルの習得。 ③ ドラフトингを行い、パターンの修正が出来るスキルの習得。 ※ 立体裁断で基本アイテムを表現できるスキルを習得。		成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		<table border="1"> <tr> <td>1</td><td>定期試験結果</td><td>%</td></tr> <tr> <td>2</td><td>提出物/期限遵守</td><td>80 %</td></tr> <tr> <td>3</td><td>独創性/習熟度</td><td>%</td></tr> <tr> <td>4</td><td>意欲・授業態度</td><td>20 %</td></tr> </table>	1	定期試験結果	%	2	提出物/期限遵守	80 %	3	独創性/習熟度	%	4	意欲・授業態度	20 %
1	定期試験結果	%															
2	提出物/期限遵守	80 %															
3	独創性/習熟度	%															
4	意欲・授業態度	20 %															
使 教 材	●文化ファッショントレーニング大系 アパレル生産講座③																

後期 授業計画 (10月-3月)			
			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	地直し、ボディライン入れ	デザインを読み取り、必要な案内線をボディに入れる。腰線、ウエストライン、ダーツ位置の確認をしボディラインテープを入れる。
2	3-4	タイトスカート 前スカート	ヒップのゆとりを考え、シルエットを構築する。ウエストでの残り分量がダーツであるということを確認し理解を深める。
3	5-6	タイトスカート 後ろスカート	ヒップのゆとりを考え、シルエットを構築する。ウエストでの残り分量がダーツであるということを確認し理解を深める。
4	7-8	ドラフティング、パターンチェック、再組立、まとめ	シーチングをボディから外し、製図用紙にトレースする。パターンの復説をし、ドラフティングの技術を習得する。全体のまとめをする。
その他 (授業に際しての注意点)		演習を通して、ボディラインに合わせた布の動き、地の目の見方を意識して取り組む。	

授業科目等の概要														
学科	服飾専門課程					ファッションデザイン科					1年			
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、パタンナーを目指す。													
分類 種別	必修	○	選択		配当年次	1年	学期	通年	○	前期		後期		
授業科目	服飾造形					授業方法	講義	△	演習	△	実習	○		
担当教員	ソーリング I 一明 豪・岸川 真子					職業実践専門課程：企業との連携					計	314		
※実務家教員	○	一明：アパレル衣料、雑貨の企画制作、舞台衣装制作、ブライダル小物・雑貨のオーダーメイド、テレビ番組スタイリスト等で培った実践的な企画・デザイン、縫製技術、衣服の取扱い等を活かし、指導する。 岸川：OEMメーカーやレディースブランドの企画デザイナーおよび縫製工場の工場縫いの実践的な経験を活かし指導する。												
資格検定									必修			選択		
授業概要	デザイナー、企画職を目指すために必要なスキルとなる「ソーリング」。構造を理解しディテールまで細かなデザインや仕様が書けるよう、一年を通してキュロット、シャツブラウス、文化祭オリジナルワンピース、裏付きジャケットスーツのアイテムを制作し、基本知識とプロセスを理解しながら進めることを目標とする。部分的なディテール実習も含めながら衣服形成の基礎制作技術を習得する。													
学習成果	① 縫い代の寸法通りに縫える技術を習得。 ② 素材に合ったアイロンの使い方（スチーム、ドライ）を習得。 ③ 構造を理解し自ら考えることの出来る縫製の技術を習得する。 ※ デザイン・素材・パターンに適した縫製技術を習得。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)			1	定期試験結果			%	2	提出物/期限遵守			%
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④ ●KFDオリジナル実習プリント配布													

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1 1-9	ミシン基礎縫い（直線・曲線縫い）/手縫い基礎・付属類つけ方		工業用直縫本縫いミシンに慣れ、直縫、カーブが縫えるようにする。また、手工程で必要な基本的な手縫いの基礎で理解を深める。
2 10-18	縫い代の始末・部分縫い裁断・縫製		軽衣料に必要な様々な縫い代の始末について理解を深める。
3 19-27	キュロット裁断・縫製1		段ぐりのカーブのミシンとロックミシンのかけ方、ゴムの入れ方、3つ折りミシンのかけ方を習得する。
4 28-36	キュロット裁断・縫製2		段ぐりのカーブのミシンとロックミシンのかけ方、ゴムの入れ方、3つ折りミシンのかけ方を習得する。
5 37-45	ディテール各種部分縫い裁断・縫製 (フラットニットファスナー、ピンタック、フリル、ギャザー)		スカート製作に必要なファスナー、ピンタック、フリル、ギャザーの縫い方を習得する。
6 46-54	オリジナルスカート裁断・縫製1		フラットニットファスナー、襟上げ、ベルト付け等、スカート製作に必要とされる基本的な仕様を理解する。
7 55-63	オリジナルスカート裁断・縫製2		フラットニットファスナー、襟上げ、ベルト付け等、スカート製作に必要とされる基本的な仕様を理解する。
8 64-72	ディテール各種部分縫い裁断・縫製 (セットインスリーブ、シャツスリーブ、衿3種)		シャツ製作に必要な袖付け、衿付け、前襟の仕様、工程と縫い方を習得する。
9 73-81	オリジナルシャツ裁断・縫製1		シャツの衿付け、袖付け、前立ての縫製仕様を理解する。 ボタンホール、ボタン付けの方法を理解する。
10 82-90	オリジナルシャツ裁断・縫製2		シャツの衿付け、袖付け、前立ての縫製仕様を理解する。 ボタンホール、ボタン付けの方法を理解する。
11 91-99	オリジナルシャツ裁断・縫製3		シャツの衿付け、袖付け、前立ての縫製仕様を理解する。 ボタンホール、ボタン付けの方法を理解する。
12 100-108	ディテール各種部分縫い裁断・縫製 (コンシールファスナー、カフス3種)		ワンピース製作に必要なファスナー、袖口や衿ぐりの明きでよく使われているセーラー明き(見返し始末)とスランшу明き(持ち出し始末)、短目明きについて縫い方を習得する。
13 109-117	ディテール各種部分縫い裁断・縫製 (コンシールファスナー、カフス3種)		ワンピース製作に必要なファスナー、袖口や衿ぐりの明きでよく使われているセーラー明き(見返し始末)とスランшу明き(持ち出し始末)、短目明きについて縫い方を習得する。
14 118-126	文化祭作品(ワンピース):型出し・裁断・縫製1		オリジナルデザインのワンピースを制作する。各自が相かい仕様について調べ、これまで習得した技術を活かし、自分で考えて縫うことを目的とする。
15 127-142	文化祭作品(ワンピース):型出し・裁断・縫製2、まとめ		オリジナルデザインのワンピースを制作する。各自が相かい仕様について調べ、これまで習得した技術を活かし、自分で考えて縫うことを目的とする。半期のまとめを行う。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-11	文化祭作品(ワンピース):型出し・裁断・縫製3	オリジナルデザインのワンピースを制作する。各自が細かい仕様について調べ、これまで習得した技術を活かし、自分で考えて使うことを目的とする。
2	12-22	文化祭作品(ワンピース):型出し・裁断・縫製4	オリジナルデザインのワンピースを制作する。各自が細かい仕様について調べ、これまで習得した技術を活かし、自分で考えて使うことを目的とする。
3	23-33	裏付タイトスカート:表地裁断・縫製	中肉ウールの扱い、裁断方法、裏地のキセの入れ方、ベンツやベルトについて理解を深める。
4	34-44	裏付タイトスカート:裏地裁断・縫製	中肉ウールの扱い、裁断方法、裏地のキセの入れ方、ベンツやベルトの仕様について理解を深める。
5	45-55	フラップポケット:部分縫い裁断・縫製	中肉ウールでのフラップポケットの縫製方法を習得する。フラップの考え方や手がどこから入るのか、袋布(別裁ち)の構造はどうなっているのかについても理解を深める。
6	56-66	裏付4面構成ジャケット:ウール地直し/表地裁断・芯貼り・再裁断・テープ貼り	中肉ウールの扱い、粗裁ち、再裁断の考え方、構造を考えた各箇所に貼るテープの考え方について理解を深める。
7	67-77	裏付4面構成ジャケット:表地縫製1	パネルライン、プリンセスラインのカーブの縫い方、アイロンでのくせとり方法、衿のつけ方にについて習得する。
8	78-88	裏付4面構成ジャケット:表地縫製2	パネルライン、プリンセスラインのカーブの縫い方、アイロンでのくせとり方法、衿のつけ方にについて習得する。
9	89-99	裏付4面構成ジャケット:裏地裁断・縫製/表地と縫製1	裏地の裁断方法、キセの考え方、縫製方法について理解を進める。
10	100-110	裏付4面構成ジャケット:裏地裁断・縫製/表地と縫製2	裏地の裁断方法、キセの考え方、縫製方法について理解を進める。
11	111-121	裏付4面構成ジャケット:袖縫製	2枚袖を組む、あき見せについて理解を深め、くせとりやいせ役などのアイロン技術を習得する。
12	122-132	裏付4面構成ジャケット:身頃に袖付け	肩頃に袖をつけるときのピン打ち方法、山布、肩バットのつけ方を習得する。
13	133-143	裏付4面構成ジャケット:仕上げ	袖ぐり、裾まつり、墨止めなど、仕上げの方法を習得する。
14	144-154	裏付4面構成ジャケット:釦ホールと釦付け/仕上げアイロン	カボタン、鈕目穴の考え方について理解を深め、仕上げアイロンのかけ方も習得する。
15	155-172	ソーイングまとめ	1年間のソーイングのまとめを行う。
その他 (授業に際しての注意点)	時間内に進める作業は必ず終わるようにする。日頃から習得した技術を継続して復習し、レベルアップを図ることが望ましい。また、確認ポイントでは必ず教員のチェックを受けるようにし、間違いを早めに気づくようにすると完成度も上がる。		

授業科目等の概要																		
学科	服飾専門課程						ファッションデザイン科											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、バタンナーを目指す。																	
分類	必修	○	選択		配当年次	1年	学期	通年		前期	○	後期						
種別	服飾造形						授業方法	講義	△	演習	△	実習						
授業科目	ハンドワーク I						授業時間数	前期	30	後期		計 30						
担当教員	一明 豪						職業実践専門課程：企業との連携											
※実務家教員	○	アパレル衣料、雑貨の企画制作、舞台衣装制作、ブライダル小物・雑貨のオーダーメイド、テレビ番組スタイリスト等で培った実践的な企画・デザイン、縫製技術、衣服の取扱い等を活かし、指導する。																
資格検定																		
必修							選択											
授業概要	衣服を装飾するための基礎的な技術やテキスタイルデザインの知識や技法を習得し、作品制作やデザイン発想に活かす。																	
学習成果	① 基礎的なハンドワーク技術の取得。	② 作品課題に応用できるテクニックの習得。	③ アパレル商品のデザイン性や商品価値を高める。	※ 製造業における手作業の技術向上。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	%							
使用教材	●文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑧ ●KFDオリジナル実習プリント配布								2	提出物/期限遵守	70	%						

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	エンブロイダリー 色糸刺繡	代表的な刺繡である色糸刺繡の基本となるアウトラインステッチやチェンステッチ、サテンステッチなど8つの刺し方を理解し、実践・習得する。
2	3-4	エンブロイダリー ピーズ・スパングル	装飾表現の中で最も美しく、輝かしく表現できる技法を理解し、実践・習得する。
3	5-6	エンブロイダリー スモッキング	オートクチュールだけでなく既製服にも用いられるスマッキングの技法の基本となるバーンスマッキングとラティスマッキングを理解し、実践・習得する。
4	7-8	エンブロイダリー作品 まとめ①	エンブロイダリーの技術を活かした雑貨作品を制作し、文化祭で販売。
5	9-10	エンブロイダリー作品 まとめ②	エンブロイダリーの技術を活かした雑貨作品を制作し、文化祭で販売。
6	11-12	染色技法① (染色実験)	染色に関する基本的な知識と技法を学び、絞り染め、タイダイ染めなどの染色技法を用いて、Tシャツを製作。
7	13-14	染色技法② (絞り染め、タイダイ染め)	染色に関する基本的な知識と技法を学び、絞り染め、タイダイ染めなどの染色技法を用いて、Tシャツを製作。
8	15-16	染色技法③ (絞り染め、タイダイ染め)	染色に関する基本的な知識と技法を学び、絞り染め、タイダイ染めなどの染色技法を用いて、Tシャツを製作。
9	17-18	シルクスクリーンプリント① 図案	シルクスクリーンプリントに関する基本的な知識を学び、テキスタイルをデザインし、制作する。
10	19-20	シルクスクリーンプリント② スクリーン作成	シルクスクリーンプリントに関する基本的な知識を学び、テキスタイルをデザインし、制作する。
11	21-22	シルクスクリーンプリント③ プリント実習	シルクスクリーンプリントに関する基本的な知識を学び、テキスタイルをデザインし、制作する。
12	23-24	シルクスクリーンプリント④ プリント実習	シルクスクリーンプリントに関する基本的な知識を学び、テキスタイルをデザインし、制作する。
13	25-26	Revo Labo演習	Revo Laboの見学及び、プリント演習を通して、ものづくりに関する様々な機材に触れ、作品制作に活かす。
14	27-28	Revo Labo演習	Revo Laboの見学及び、プリント演習を通して、ものづくりに関する様々な機材に触れ、作品制作に活かす。
15	29-30	Revo Labo演習、まとめ	Revo Laboの見学及び、プリント演習を通して、ものづくりに関する様々な機材に触れ、作品制作に活かす。
その他 (授業に際しての注意点)	制作物は、文化祭にて展示発表する。日頃から、感性を養い、デザイン発想に活かしてほしい。		

授業科目等の概要

授業科目等の概要																			
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン科 1年																		
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、バタンナーを目指す。																		
分類	必修	○	選択	配当年次	1年	学期	通年	○	前期		後期								
種別	流通・販売					授業方法	講義	△	演習	実習	○								
授業科目	市場調査 I					授業時間数	前期	15	後期	15	計	30							
担当教員	一明 豪・岸川 真子					職業実践専門課程：企業との連携				○									
※実務家教員	○	一明：アパレル衣料、雑貨の企画制作、舞台衣装制作、ブライダル小物・雑貨のオーダーメイド、テレビ番組スタイリスト等で培った実践的な企画・デザイン、縫製技術、衣服の取扱い等を活かし、指導する。 岸川：OEMメーカー・レディースブランドの企画デザイナーおよび縫製工場の工場棟の実践的な経験を活かし指導する。																	
資格検定																			
授業概要	アパレル企業の殆どが行っている「市場調査」。ソーイングで制作するアイテムを中心に調査し、実習に反映させることを目的とする。更に考える力を身につけ、社会とファッションへの興味・理解を深める。豊かな感性を育てる為、日頃から自分の感性と共に鳴る物、想像を描き立てる物を収集し、クロッキー帳に表現し常にネタ帳を増やし続けることを目的とする。																		
学習成果	① 市場の動向を把握し、売れ筋商品の分析・理解を深める。 ② 定点観測を行い商品の動きを把握しデザインに活かす技術の習得。 ③ 色々なところへの興味を描き立て、自身のネタとして収集出来る。 ※ 制作アイテムに沿った売れ筋のデザイン提案が出来るスキルの習得。	成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	20	%	2	提出物/期限遵守	60	%	3	独創性/習熟度	%						
使用教材	●ファッション雑誌 ●コレクション雑誌 ●ファッション用語辞典 ●KFDオリジナル実習プリント配布	4	意欲・授業態度	20	%														

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1 1	ファッションとは/マーケティングとは/トレンドとは（コレクション）/織研新聞、WWDについて		ファッションの動向や市場について織研新聞やWWDなどの情報誌を用いて説明し、理解を深める。
2 2	学外研修1		社会への興味を広げ、気になったモノ・コトをクロッキー帳に表現し、ネタ帳を作成する。
3 3	ターゲット、コンセプトについて		製品企画の根幹となるターゲット、コンセプトについて理解する。
4 4	ブランド調査①		年間を通してベンチマークするブランド調査する。 ※ブランドはオケージョンに幅のあるブランドが好ましい。
5 5	ブランド調査②		年間を通してベンチマークするブランド調査する。 ※ブランドはオケージョンに幅のあるブランドが好ましい。
6 6	ブランド商品調査：スカート		ソーイングアイテムに合わせ、スカートを調査。シルエット、デザイン、着丈、カラー展開などを調査し売れ筋アイテムを把握する。
7 7	ブランド商品調査：シャツブラウス		ソーイングアイテムに合わせ、シャツブラウスを調査。シルエット、デザイン、着丈、カラー展開などを調査し売れ筋アイテムを把握する。
8 8	シャツ&スカートデザインプレゼンテーション		ブランド調査を基にシャツ&スカートのデザイン、制作に向けたコンセプトMAPをプレゼンテーションする。
9 9	シャツ&スカート商品企画書制作		ブランド調査を基にしたシャツ&スカートのコンセプトイメージMAP、商品企画書、仕様書を制作する。
10 10	ブランド調査・分析：ワンピース/市場調査1		ワンピースドレスの調査・ファッションイメージにおけるマトリックス分析を通して、全体的な傾向を掴み、文化祭ワンピースのデザインソースとする。
11 11	ブランド調査・分析：ワンピース/市場調査2		ワンピースドレスの調査・ファッションイメージにおけるマトリックス分析を通して、全体的な傾向を掴み、文化祭ワンピースのデザインソースとする。
12 12	文化祭作品について コンセプトイメージ・商品分析・素材分析・デザイン分析		文化祭作品についてグループごとに分かれ、コンセプトを立案する。ブランドの考えに沿ったデザイン提案を行い、企業デザイナーの仕事について理解を深める。
13 13	文化祭作品平面画にてデザイン提出・まとめ		文化祭作品についてグループごとに分かれ、プランディングする。ブランドの考えに沿ったデザイン提案を行い、企業デザイナーの仕事について理解を深める。半期のまとめを行う。
14 14	文化祭作品商品企画書制作1		文化祭作品のコンセプトイメージMAP、商品企画書、仕様書を制作する。
15 15	文化祭作品商品企画書制作2、半期まとめ		文化祭作品のコンセプトイメージMAP、商品企画書、仕様書を制作する。半期のまとめをする。

		後期授業計画(10月-3月)	授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1	文化祭作品について ワンピースディスプレイ企画	文化祭に向けてディスプレイ企画を立てる。市場も調査し、どんな展示にしたいのかプランディングしたグループで考えることで、見せ方についての理解を深める。
2	2	ブランド商品調査：スーツ	ソーティングアイテムに合わせ、スーツを調査。ターゲットの違いによる、シルエット、デザイン、着丈、カラー展開などを調査し売れ筋アイテムを把握する。
3	3	スーツ商品企画1	ターゲットに合わせた売れるスーツを企画する。ターゲットMAP、コンセプトMAPを作成。色展開、素材、価格などを含め商品企画する。
4	4	スーツ商品企画2	ターゲットに合わせた売れるスーツを企画する。ターゲットMAP、コンセプトMAPを作成。色展開、素材、価格などを含め商品企画する。
5	5	スーツプレゼンテーション	ソーティングアイテムに合わせ、スーツを調査したうえで、ターゲットに合わせた売れるデザインを探求する。
6	6	商品調査：手袋	職業実践で取り組む手袋について、市場のデザイン、機能がどういったものが人気があるのか調査し、今後の取り組みにいかすこととする。
7	7	職業実践専門課程：店頭調査1	職業実践で取り組む手袋について、市場のデザイン、機能がどういったものが人気があるのか調査し、定点観測も含め、今後の取り組みにいかすこととする。
8	8	職業実践専門課程：店頭調査2	職業実践で取り組む手袋について、市場のデザイン、機能がどういったものが人気があるのか調査し、定点観測も含め、今後の取り組みにいかすこととする。
9	9	職業実践専門課程：街頭調査1	職業実践で取り組む手袋について、一般的なニーズを把握するため街頭調査を行う。場所や時間帯も変え、調査することの結果についても理解を深める。
10	10	職業実践専門課程：街頭調査2	職業実践で取り組む手袋について、一般的なニーズを把握するため街頭調査を行う。場所や時間帯も変え、調査することの結果についても理解を深める。
11	11	職業実践専門課程：中間発表まとめ1	街頭調査を踏まえてアンケートをまとめ、どういった対象でデザイン提案をしていくか考え、売り上げにつながるデザイン提案のプロセスを学ぶ。
12	12	職業実践専門課程：中間発表まとめ2	街頭調査を踏まえてアンケートをまとめ、どういった対象でデザイン提案をしていくか考え、売り上げにつながるデザイン提案のプロセスを学ぶ。
13	13	職業実践専門課程：最終プレゼンテーションまとめ	中間発表からアドバイスをもとに、個人のデザイン提案を行う。最終プレゼンテーションのブラッシュアップ。
14	14	職業実践専門課程：最終プレゼンテーション	中間発表からアドバイスをもとに、個人のデザイン提案を行う。
15	15	まとめ	半期のまとめを行う。
その他 (授業に際しての注意点)		製品企画、提案の根拠となる情報の収集、分析、考察を日頃から意識する。	

授業科目等の概要																					
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン科 1年																				
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、パターンナーを目指す。																				
分類	必修	○	選択		配当年次	1年	学期	通年	○	前期		後期									
種別	流通・販売				授業方法	講義	○	演習	△	実習	△										
授業科目	ビジネスマナー				授業時間数	前期	15	後期	15	計	30										
担当教員	畠山 未来・一明 豪				職業実践専門課程：企業との連携																
※実務家教員	○	畠山：20年間、企業・官公庁にて、経営企画・財務会計・経理・経営・人事・営業にて責任者として従事。企業の経営・組織マネジメントや人材育成にも多く携わってきた。現在、専門学校や日本語教育・企業研修を通して、社会の魅力となる人材の育成に注力している。 一明：アパレル衣料、靴革の企画制作、舞台衣装制作、ブライダル小物・靴革のオーダーメイド、テレビ番組スタイリスト等で培った実践的な企画・デザイン・縫製技術、衣服の取扱い等を活かし、指導する。																			
資格検定													必修								
授業概要	学生から社会人へと自己意識を変革させる。働くことの意味を真に理解し、ビジネスパーソンに必要な「考え方・行動・技術」を身に付けるために以下3つの能力を習得することを目標とする。 ・論理的思考能力、表現力、考える力、書く力 ・企業における組織のしくみやPDCA・ホウレンソウなどの仕事の進め方 ・コミュニケーションスキル、ビジネスマナー（挨拶・お辞儀・敬語・訪問・来客・電話・文書）																				
学習成果	① 論理的思考能力（表現力・考える力・書く力）を身に付ける。 ② 企業の仕組みや仕事の進め方を理解する（PDCA・ホウレンソウ）。 ③ コミュニケーションスキル、ビジネスマナーを習得する。 ※ 社会人に必要な「考え方・行動・技術」を習得する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		80	%	2	提出物/期限遵守		%									
使用教材	●KFDオリジナルプリント配布																				

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習	
1	1-2	オリエンテーション（アイスブレイキング・自己紹介・ビジネスマナーとは・ゴール提示・会社が求める人材像）		
2	3-4	社会人とは（社会人と学生の違い）、仕事をすることの意味とは		
3	5-6	挨拶、お辞儀、身だしなみ（メラビアンの法則、身だしなみとおしゃれの違い）		
4	7-8	言葉遣いの基本（敬語、クッション言葉、間違った日本語） 電話のかけ方・受け方、訪問のマナー		
5	9-10	仕事の進め方 報告・連絡・相談		
6	11-12	前期演習（言葉遣いの基本）		
7	13-14	前期演習（電話のかけ方）		
8	15	半期のまとめ		
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは準備学習
1	1-2	履歴書・エントリーシート、ビジネス文書の書き方（ルール、項目の意味、表現方法）	履歴書とエントリーシートを書くために必要なルール、項目を知り、理解できるようになる。項目ごとに書き込む内容を自分で文作でき、就職するに望ましい表現力を身に付ける。
2	3-4	自己PR・志望動機のための自己分析（マインドマップ・ロジックツリー作成）	履歴書とエントリーシートを書くために必要なルール、項目を知り、理解できるようになる。項目ごとに書き込む内容を自分で文作でき、就職するに望ましい表現力を身に付ける。
3	5-6	自己PR・志望動機のための自己分析（自分史作成）	自己PR・志望動機で、正しく自分を知ってもらうには、いかに自分を知り得るかが重要となる。マインドマップとロジックツリーを作成することで、自己的信念や資質、要求を深掘りし、把握・理解する。
4	7-8	自己分析から自己PRへ(PREP法)	自己分析の結果から、自己PRへ展開する手法を学習する。文章の作成後、PREP法に分解し、実際に履歴書内に書き込んでいく。
5	9-10	面接指導（挨拶、お辞儀、入退室マナー、立ち居振る舞い）、ロールプレイング	面接における挨拶、お辞儀、言葉遣い、立ち居振る舞いを学び、入退室マナーの流れを理解する。入退室のロールプレイ・フィードバックを通して、所作や全体の流れ、自己の課題を認識する。
6	11-12	自己分析、履歴書まとめ、担任面談1	自己分析、履歴書を基に、担任面談。履歴書の深掘り、就職指導を行う。
7	13-14	自己分析、履歴書まとめ、担任面談2	自己分析、履歴書を基に、担任面談。履歴書の深掘り、就職指導を行う。
8	15	半期のまとめ	自己分析、履歴書を基に、担任面談。履歴書の深掘り、就職指導を行う。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		特に模擬面接時には服装を適切なものにするよう注意する。全体を通して参加型授業のため、積極的に参加、発言出来るよう心がける。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッショントレーニング		2年	
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッショントレーナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、パターンナーを目指す。					
分 類	必修	○	選択	配当年次	2 年	学 期
種 別	総論		授業方法		講義	△ 演習 ○ 実習 ○
授業科目	服飾造形論 II		授業時間数		前期 15	後期 15 計 30
担当教員	堤 麻実子		職業実践専門課程：企業との連携			
※実務家教員						
資格検定					必修	選択
授業概要	プロダクト全般に関する仕事を理解し、製造工程、縫製方法に関する知識、縫製機器の取り扱い、服飾付属品関連の知識、素材の種類や生地の特性に対応した裁断・芯貼り、縫製、また補正に関する知識、技術を習得する。					
学習成果	① 服作りと職出しに関する基本的な知識を理解する。 ② 素材の特性に応じた技術を習得する。 ③ 縫製機器の取り扱いを習得する。 ※ 服作りと職出しに活用できるスキルの習得。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1 定期試験結果 40 %	2 提出物/期限遵守 40 %	3 独創性/習熟度 %
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●KFDオリジナルプリント配布 ●一般財団法人 日本ファッショントレーニング振興協会：パターンメーキング技術検定試験2級ガイドブック2級 ●文化学園 文化事業局 テキスタイルハンドブック ●ファッショントレーニングディクショナリー					

前期授業計画(4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1	ファスナーの構造	素材やデザインに応じた方法を理解し習得する。
2	2	留め具、肩パッド、ボタンホールの知識	素材やデザインに応じた方法を理解し習得する。
3	3	各種素材の裁断、地づめ、地直し、芯地、接着テープ	透け、垂れ、張り、けばなど素材に応じた裁断方法、裏布の目的と役割、芯の特徴と用途を理解し習得する。
4	4	糸と針、素材の違いによる押さえ金の知識	素材に応じて適切な糸と針を選び、デザインに適した針目を理解して習得する。
5	5	仕様書の書き方、マーキング	基本的な仕様書の書き方や無駄な工賃がかかる用尺について理解し習得する。
6	6	型紙と縫製の理論1	パターンメーキング検定理論において、必要な知識を習得し、造形の知識について理解を深める。
7	7	型紙と縫製の理論2	パターンメーキング検定理論において、必要な知識を習得し、造形の知識について理解を深める。
8	8	型紙と縫製の理論3	パターンメーキング検定理論において、必要な知識を習得し、造形の知識について理解を深める。
9	9	型紙と縫製の理論4	パターンメーキング検定理論において、必要な知識を習得し、造形の知識について理解を深める。
10	10	パンツの仕様書1	前明きパンツの構造を理解し、適切な仕様を記入し習得する。縫製工場に提出する時に必要な仕様書について理解を深め取り組む。
11	11	パンツの仕様書2	前明きパンツの構造を理解し、適切な仕様を記入し習得する。縫製工場に提出する時に必要な仕様書について理解を深め取り組む。
12	12	パンツの仕様書2	前明きパンツの構造を理解し、適切な仕様を記入し習得する。縫製工場に提出する時に必要な仕様書について理解を深め取り組む。
13	13	カット＆ソーンの仕様書1	伸縮素材の特性や扱い方を理解し習得する。縫製工場に提出する時に必要な仕様書について理解を深め取り組む。
14	14	カット＆ソーンの仕様書2	伸縮素材の特性や扱い方を理解し習得する。縫製工場に提出する時に必要な仕様書について理解を深め取り組む。
15	15	半期のまとめ	半期のまとめを行い、おさらいをする。

後期 授業計画 (10月-3月)		授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1	ラグランスリーブコートの仕様書1 袖の運動量や背面の立体感を捉えた2面構成の理解を深め取り組む。ラグラスリーブコートの縫製に関する仕様を記入し習得する。縫製工場に輸出する時に必要な仕様書について理解を深め取り組む。
2	2	ラグランスリーブコートの仕様書2 袖の運動量や背面の立体感を捉えた2面構成の理解を深め取り組む。ラグラスリーブコートの縫製に関する仕様を記入し習得する。縫製工場に輸出する時に必要な仕様書について理解を深め取り組む。
3	3	ラグランスリーブコートの仕様書3 袖の運動量や背面の立体感を捉えた2面構成の理解を深め取り組む。ラグラスリーブコートの縫製に関する仕様を記入し習得する。縫製工場に輸出する時に必要な仕様書について理解を深め取り組む。
4	4	卒業記念展：クリエーションの仕様書1 個人作品の仕様書をまとめることで理解を深める。
5	5	卒業記念展：クリエーションの仕様書2 個人作品の仕様書をまとめることで理解を深める。
6	6	卒業記念展：クリエーションの仕様書3 個人作品の仕様書をまとめることで理解を深める。
7	7	卒業記念展：クリエーションの仕様書4 個人作品の仕様書をまとめることで理解を深める。
8	8	卒業記念展：クリエーションの仕様書5 個人作品の仕様書をまとめることで理解を深める。
9	9	卒業記念展：クリエーションの仕様書6 個人作品の仕様書をまとめることで理解を深める。
10	10	卒業記念展：クリエーションの仕様書7 個人作品の仕様書をまとめることで理解を深める。
11	11	卒業記念展：クリエーションの仕様書8 個人作品の仕様書をまとめることで理解を深める。
12	12	卒業記念展：クリエーションの仕様書9 個人作品の仕様書をまとめることで理解を深める。
13	13	卒業記念展：クリエーションの仕様書10 個人作品の仕様書をまとめることで理解を深める。
14	14	卒業記念展：クリエーションの仕様書11 個人作品の仕様書をまとめることで理解を深める。
15	15	半期のまとめ 半期のまとめを行い、おさらいをする。
その他 (授業に際しての注意点)		授業内容が、ソーイングⅡやパターンメーキングⅡと連動するため、常に一連の流れとして身につける必要がある。さらに市場調査Ⅱで、服の表情を左右するディテールデザインに注目し仕様書の内容も深めることができる。

授業科目等の概要																														
学科	服飾専門課程					ファッションデザイン科			2年																					
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、パターンナーを目指す。																													
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期		後期																		
種別	デザイン					授業方法	講義	△	演習	△	実習	○																		
授業科目	服飾デザインⅡ					授業時間数	前期	105	後期	120	計	225																		
担当教員	堤 麻実子・岸川 真子					職業実践専門課程：企業との連携					○																			
※実務家教員	○	岸川：OEMメーカー・レディースブランドの企画デザイナーおよび縫製工場の工場縫いの実践的な経験を活かし指導する。																												
資格検定																														
授業概要	ファッションの原点である生地の企画力・デザイン力を身につけるため、グラフィックⅡやソーイングⅡ、パターンメーキングⅡの授業と連動してまとめていく。また、市場調査を元にデザイン展開を行い、ターゲットに向けたデザイン提案力を習得する。さらに、卒業記念展作品の制作に向け、オリジナリティに富むデザイン発想を行い造形的に表現する力を身に付ける。卒業記念展においてグループでコミュニケーションを図り、自主的に活動できるよう訓練する。																													
学習成果	① 感性と悟力を鍛えられるスキルを習得する。 ② 五感を刺激しデザインに反映するスキルを習得する。 ③ デザイン発想を習慣化するスキルを習得する。 ※ デザインを造形的に表現する力を身につける。						成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)		1	定期試験結果		%																		
使用教材	●文化ファッション大系 服飾専門講座⑨ ●KFDオリジナルプリント配布 ●WWD ●コレクション雑誌 ●市場調査データ																													
前期授業計画(4月-9月)							授業習熟度のねらいまたは、準備学習																							
1	1-7	卒業記念展作品：テーマ、コンセプト、テキスタイル、デザインワーク					コンセプトを表現するための強い訴求が出来る資料をまとめデザインへと落とし込んでいくスキルを習得する。																							
2	8-14	ソーイングⅡ制作物：ターゲット企画、情報収集企画、テキスタイル（副資材）、デザインワーク、ラインナップ					市場調査をもとに、デザインワークを行いプレゼンテーションする。計画性を持って取り組み、デザインを伝えるスキルを習得する。																							
3	15-21	デザインの3要素：素材制作実習					衣服の原点である素材の様々な技法に触れるスキルを習得する。																							
4	22-28	オリジナルテキスタイルデザイン：発想の源、コンセプト作成、形と色の発展					捺染プリントや様々なテキスタイル表現を理解し、各自のアイデアをまとめるスキルを修得する。																							
5	29-35	オリジナルテキスタイルデザイン：実物デザイン案作成					コンセプトに基づき、実物大で絵型を作成し、細部まで追求した世界観を1つにまとめるスキルを習得する。																							
6	36-42	オリジナルテキスタイルデザイン：プレゼンテーション、修正					インスピレーションをヴィジュアルで表現しプレゼンテーションする。多くの意見や考へに触れ、各自のデザインをブラッシュアップする。																							
7	43-49	職業実践専門課程：企業ブランドイメージ分析、ターゲット分析、コンセプト作成、情報収集					既存のブランドを把握し、ターゲットマインドの理解を深める。市場調査での情報収集を元に、デザインコンセプトをまとめシートを作成し、理解を深める。																							
8	50-56	職業実践専門課程：デザインワーク1					ターゲットイメージに合ったデザイン提案を行い、製品企画としてのスキルを習得する。																							
9	57-63	職業実践専門課程：デザインワーク2					ターゲットイメージに合ったデザイン提案を行い、製品企画としてのスキルを習得する。																							
10	64-70	卒業記念展作品：プレゼンテーション及び修正					テーマをヴィジュアルで表現しプレゼンテーションで伝えるスキルを習得する。多くの意見や考へに触れ、ブラッシュアップする。																							
11	71-77	卒業記念展作品：デザインワーク					世界観を表現したオリジナルデザインを追求するスキルを習得する。																							
12	78-84	卒業記念展作品：デザインラインナップ、プレゼンテーション					世界観を表現したオリジナルデザインをラインナップで見せる。プレゼンテーションで伝えるスキルを習得し、多くの意見や考へに触れブラッシュアップする。																							
13	85-91	職業実践専門課程：デザインワーク3					ターゲットイメージに合ったデザイン提案を行い、製品企画としてのスキルを習得する。																							
14	92-98	職業実践専門課程：デザインワーク4					ターゲットイメージに合ったデザイン提案を行い、製品企画としてのスキルを習得する。																							
15	99-105	半期のまとめ					半期のまとめを行い、おさらいする。																							

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、学習目標
1	1-8	卒業記念展作品：決定デザインコーディネート	世界観を表現するためのトータルコーディネートについて追求するスキルを習得する。
2	9-16	職業実践専門課程：ポスター・デザイン1	テーマを訴求するためのポスター・デザインについてスキル習得する。
3	17-24	職業実践専門課程：ポスター・デザイン2	テーマを訴求するためのポスター・デザインについてスキル習得する。
4	25-32	職業実践専門課程：企画書まとめ1	産するための方法について学び、スキルを習得する。一連の流れをまとめて理解を深める。
5	33-40	職業実践専門課程：企画書まとめ2	産するための方法について学び、スキルを習得する。一連の流れをまとめて理解を深める。
6	41-48	卒業記念展作品：グループ ドシエまとめ1	各グループの資料を整理し、ドシエをまとめポートフォリオへの流れを再確認し、各自のデザインへの理解を深める。
7	49-56	卒業記念展作品：グループ ドシエまとめ2	各グループの資料を整理し、ドシエをまとめポートフォリオへの流れを再確認し、各自のデザインへの理解を深める。
8	57-64	卒業記念展作品：グループ ドシエまとめ3	各グループの資料を整理し、ドシエをまとめポートフォリオへの流れを再確認し、各自のデザインへの理解を深める。
9	65-72	卒業記念展作品：グループ ポートフォリオまとめ1	各グループの資料を整理し、ポートフォリオにまとめるスキルを習得する。
10	73-80	卒業記念展作品：グループ ポートフォリオまとめ2	各グループの資料を整理し、ポートフォリオにまとめるスキルを習得する。
11	81-88	卒業記念展作品：グループ ポートフォリオまとめ3	各グループの資料を整理し、ポートフォリオにまとめるスキルを習得する。
12	89-96	卒業記念展：クリエーション作品モデルフィッティング	デザイナーおよびフィッターとして、作品を伝えるスキルを習得する。
13	97-104	卒業記念展：クリエーション作品エントリーシート作成	デザイナーとして、作品を伝えるスキルを習得する。
14	105-112	卒業記念展：搬入、ショーステージ衣装確認、各自担当業務、搬出	デザイナーとして、美しい作品への理解を深め、作品を伝えるスキルを習得する。
15	113-120	半期のまとめ	卒業実験及び卒業記念展の制作物のまとめを行う。
その他 (授業に際しての注意点)		個人企画とグループ企画があるため、計画を立て目標に向かって積極的に取り組み納期意識を持つ。また、グラフィックⅡ、パターンメーキングⅡ、ソーイングⅡ、市場調査Ⅱの授業と連携して作品を制作する。	

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程					ファッションデザイン科					2年		
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、バタンナーを目指す。												
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期		後期	
種別	デザイン					授業方法	講義	△	演習	△	実習	○	
授業科目	ドローイングⅡ					授業時間数	前期	30	後期	30	計	60	
担当教員	舞田 章子					職業実践専門課程：企業との連携							
※実務家教員	○	アパレル企業の営業企画での実務経験にて培ってきた、実務性の高いアパレルデザインに関する知識及びデザイン発想・選定技能を教授する。											
資格検定									必修		選択		
授業概要	イメージしたデザインを視覚的に表現することを目的とし、1年次に学んだ基本的なテクニックを踏まえて様々な画材での着彩方法を学ぶ。学生の感性を磨く為に、各種コンテストへの応募・入選目標とする。※コンテスト作品への対応を行う為、前後期イレギュラーな回数で行うが、通年で換算することとする。												
学習成果	①	スタイル画の表現力を習得する。				成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%			
	②	平面画のスキルを習得する。					2	提出物/期限遵守		50	%		
	③	オリジナルの線を習得する。					3	独創性/習熟度		30	%		
	※	バランスを身につけ、各自の線の習得を目指す。					4	意欲・授業態度		20	%		
使用教材	●コレクション雑誌 ●各自参考書籍 ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●ドローイングセット												

前期授業計画(4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	YKKファスニングアワード下書き	リサーチを元に、ファスナーを活かしたオリジナルデザインの表現の習得。
2	3-4	YKKファスニングアワード着彩	リサーチを元に、ファスナーを活かしたオリジナルデザインの表現の習得。
3	5-6	YKKファスニングアワード仕上げ	リサーチを元に、ファスナーを活かしたオリジナルデザインの表現の習得。
4	7-8	ナゴヤファッショコンテスト下書き	リサーチを元に、コンセプトと素材提案を絵型で表現するスキルを習得。
5	9-10	ナゴヤファッショコンテスト着彩	リサーチを元に、コンセプトと素材提案を絵型で表現するスキルを習得。
6	11-12	ナゴヤファッショコンテスト仕上げ	リサーチを元に、コンセプトと素材提案を絵型で表現するスキルを習得。
7	13-14	日暮里デザインコンテスト下書き	リサーチを元に、コンセプトと素材提案を絵型で表現するスキルを習得。
8	15-16	日暮里デザインコンテスト着彩	リサーチを元に、コンセプトと素材提案を絵型で表現するスキルを習得。
9	17-18	日暮里デザインコンテスト仕上げ	リサーチを元に、コンセプトと素材提案を絵型で表現するスキルを習得。
10	19-20	平面画、仕様の描き方	各種アイテムやディテールの仕様を絵型で伝えるスキルの習得。
11	21-22	全国ファッション画コンクール下書き	テーマに基づいたデザイン画の構成と絵型で表現するスキルを習得。
12	23-24	全国ファッション画コンクール着彩1	テーマに基づいたデザイン画の構成と絵型で表現するスキルを習得。
13	25-26	全国ファッション画コンクール着彩2	テーマに基づいたデザイン画の構成と絵型で表現するスキルを習得。
14	27-28	全国ファッション画コンクール仕上げ	テーマに基づいたデザイン画の構成と絵型で表現するスキルを習得。
15	29-30	半期のまとめ	半期のおさらいを行う。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	コート制作作品 下書き・着彩	テーマ・コンセプトに基づき制作した実物制作コートをデザイン画と平面図で表現し、スキルを習得する。
2	3-4	全国服飾学校ファッショング画コンクール下書き	テーマに基づいたデザイン画の構成と絵型で表現するスキルを習得。
3	5-6	全国服飾学校ファッショング画コンクール着彩	テーマに基づいたデザイン画の構成と絵型で表現するスキルを習得。
4	7-8	全国服飾学校ファッショング画コンクール仕上げ	テーマに基づいたデザイン画の構成と絵型で表現するスキルを習得。
5	9-10	平面画(素材表現)、仕様の描き方1	体の動きを考慮し、素材風合いを損なわない描き方とディテールの仕様を絵型で伝えるスキルの習得。
6	11-12	平面画(素材表現)、仕様の描き方2	体の動きを考慮し、素材風合いを損なわない描き方とディテールの仕様を絵型で伝えるスキルの習得。
7	13-14	平面画(素材表現)、仕様の描き方3	体の動きを考慮し、素材風合いを損なわない描き方とディテールの仕様を絵型で伝えるスキルの習得。
8	15-16	平面画(素材表現)、仕様の描き方4	体の動きを考慮し、素材風合いを損なわない描き方とディテールの仕様を絵型で伝えるスキルの習得。
9	17-18	平面画(素材表現)、仕様の描き方5	体の動きを考慮し、素材風合いを損なわない描き方とディテールの仕様を絵型で伝えるスキルの習得。
10	19-20	平面画(素材表現)、仕様の描き方6	体の動きを考慮し、素材風合いを損なわない描き方とディテールの仕様を絵型で伝えるスキルの習得。
11	21-22	卒業記念展の制作作品下書き	コンセプトに基づいたデザイン画を表現およびスキルの習得。
12	23-24	卒業記念展の制作作品着彩1	コンセプトに基づいたデザイン画を表現およびスキルの習得。
13	25-26	卒業記念展の制作作品着彩2	コンセプトに基づいたデザイン画を表現およびスキルの習得。
14	27-28	卒業記念展の制作作品着彩3	コンセプトに基づいたデザイン画を表現およびスキルの習得。
15	29-30	まとめ	半期のデザイン画まとめを行う。
その他 (授業に際しての注意点)		各種コンテストに積極的に参加しスキルアップを計る。 毎週、コレクション作品の中から1体選びFS、BSを描いて提出する。	

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程				ファッションデザイン科				2年				
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、バタンナーを目指す。												
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期			
種別	パソコン				授業方法	講義	○	演習	△	実習	○		
授業科目	グラフィックⅡ				授業時間数	前期	60	後期	30	計	90		
担当教員	村川 俊樹				職業実践専門課程：企業との連携				○				
※実務家教員	○	WebデザイナーとしてWebデザイン・グラフィックデザイン・企画業務で培ってきたデザイン・企画の基礎知識と実践的なデザイン・スキルを教授する。皮革製品のオリジナルブランドを立ち上げ、企画・製造・販売をした業務経験より、皮革製品の川上～川下の知識と実践的なデザイン・スキルを教授する。								必修			
資格検定									選択				
授業概要	Adobe Photoshop（ラスター）を使い、テーマにあった効果的な画像処理（色調補正・画像切り抜き・フィルタ効果・描画モード等）や自分の思い描くイメージマップ制作などの演習を通じグラフィックデザインの応用を学ぶ。またAdobe Illustrator（ベクター）を理解し、演習を中心にデザインをして行い授業を進める。アイテムの平面画・柄・DM・ポスターを描くための応用力を身に付ける。												
学習成果	① Adobe Photoshopの応用操作方法の習得。 ② Adobe Illustratorの応用操作方法の習得。 ③ 平面的なヴィジュアル表現（グラフィックデザイン）方法の習得。 ※ グラフィックデザインの習得。					成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%			
使用教材	●コレクション雑誌、ファッション雑誌 ●KFDオリジナルデータ配布												

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-4	グラフィックの応用、Adobe PhotoshopとAdobe Illustratorでのデザイン	1年次で習得したスキルを駆使し、オリジナルのグラフィック作品制作を通してAdobe PhotoshopとAdobe Illustratorでのデザインの理解を深める。各自データ（雑誌）持参。
2	5-8	タイポグラフィの基礎【文字デザインと余白デザイン】	グラフィックデザインでの重要な役割を果たす文字デザイン（見せる文字と読まる文字）と余白デザイン（ホワイトスペースを使ったレイアウトデザイン）を学ぶ。KFDオリジナルデータ配布。
3	9-12	フォトレタッチで学ぶ印刷基礎【画像着彩とDTP基礎】	DTPの基礎的知識として用紙サイズ・種類とトンボ・マージンに関する知識を画像着彩を通じ習得し理解を深める。各自データ持参。
4	13-16	グラフィックデザインの応用、パスで描く平面図1【シルエット・袖・衿とオリジナル平面図】	1年次で習得したスキルを駆使し、Adobe Illustratorを用いパスでシルエット・袖・衿を描いてレイヤー及びオブジェクトの理解を深める。KFDオリジナルデータ配布。
5	17-20	グラフィックデザインの応用、パスで描く平面図2【仕様・始末・指示】	Adobe Illustratorを用いパスで描いたパーツをそれぞれ組み合わせる。各自オリジナルの平面図を組み立て、レイヤー及びオブジェクトの理解を深める。各自データ（手書きデザイン）持参。
6	21-24	オリジナルテキスタイル制作【各自柄制作】1	I. 2年次で習得したスキルを駆使し、オリジナルテキスタイル制作を通してAdobe PhotoshopとAdobe Illustratorでのデザインの理解を深める。各自データ（雑誌）持参。
7	25-28	オリジナルテキスタイル制作【各自柄制作】2	I. 2年次で習得したスキルを駆使し、オリジナルテキスタイル制作を通してAdobe PhotoshopとAdobe Illustratorでのデザインの理解を深める。各自データ（雑誌）持参。
8	29-32	オリジナルテキスタイル制作【各自柄制作】3	I. 2年次で習得したスキルを駆使し、オリジナルテキスタイル制作を通してAdobe PhotoshopとAdobe Illustratorでのデザインの理解を深める。各自データ（雑誌）持参。
9	33-36	コート企画書作成(Adobe Photoshop連動) 【各自企画書作成】1	Adobe Photoshopで画像加工・画像切り抜きをし、Adobe Illustratorで表作成・文字レイアウトを行い企画書を作成する。各自データ（手書きデザイン）持参。
10	37-40	コート企画書作成(Adobe Photoshop連動) 【各自企画書作成】2	Adobe Photoshopで画像加工・画像切り抜きをし、Adobe Illustratorで表作成・文字レイアウトを行い企画書を作成する。各自データ（手書きデザイン）持参。
11	41-44	作品企画書作成【職業実践専門課程連動】1	タイポグラフィを理解した上でAdobe Illustratorで表作成・文字レイアウトを行い、前期で行ったAdobe Photoshopで画像加工・画像切り抜きを行い企画書を作成する。各自データ（手書きデザイン）持参。
12	45-48	作品企画書作成【職業実践専門課程連動】2	タイポグラフィを理解した上でAdobe Illustratorで表作成・文字レイアウトを行い、前期で行ったAdobe Photoshopで画像加工・画像切り抜きを行い企画書を作成する。各自データ（手書きデザイン）持参。
13	49-52	作品企画書作成【職業実践専門課程連動】3	タイポグラフィを理解した上でAdobe Illustratorで表作成・文字レイアウトを行い、前期で行ったAdobe Photoshopで画像加工・画像切り抜きを行い企画書を作成する。各自データ（手書きデザイン）持参。
14	53-56	大判ポスターの制作【各自オリジナルデザイン制作】1	タイポグラフィを理解しこれまでに習得したスキルを駆使し、オリジナルポスターのデザイン制作を通してAdobe PhotoshopとAdobe Illustratorでのデザインの理解を深める。各自データ（雑誌）持参。
15	57-60	半期のまとめ	半期のおさらいを行い、理解を深める。

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-4	大判ポスターデザインの制作 【各自オリジナルデザイン制作】2	タイポグラフィを理解しこれまでに習得したスキルを駆使し、オリジナルポスターデザイン制作を通してAdobe PhotoshopとAdobe Illustratorでのデザインの理解を深める。各自データ（雑誌）持参。
2	5-8	大判ポスターデザインの制作 【各自オリジナルデザイン制作】3	タイポグラフィを理解しこれまでに習得したスキルを駆使し、オリジナルポスターデザイン制作を通してAdobe PhotoshopとAdobe Illustratorでのデザインの理解を深める。各自データ（雑誌）持参。
3	9-12	デザインの基礎 【タグデザイン】	タグ制作を通してAdobe PhotoshopとAdobe Illustratorの応用操作とデザインの理解を深める。オリジナルデータ配布、各自データ持参。
4	13-16	作品企画書作成 【各自企画書作成】1	タイポグラフィを理解した上でのAdobe Illustratorで表作成・文字レイアウトを行い、前橋で行ったAdobe Photoshopで画像加工・画像切り抜きを行い企画書を作成する。各自データ（手書きデザイン）持参。
5	17-20	作品企画書作成 【各自企画書作成】2	タイポグラフィを理解した上でのAdobe Illustratorで表作成・文字レイアウトを行い、前橋で行ったAdobe Photoshopで画像加工・画像切り抜きを行い企画書を作成する。各自データ（手書きデザイン）持参。
6	21-24	卒業記念展作品展示物制作 【各自展示物作成】1	タイポグラフィを理解した上でのAdobe Illustratorで表作成・文字レイアウトを行い、Adobe Photoshopで画像加工・画像切り抜きを行い展示物を作成する。各自データ（手書きデザイン）持参。
7	25-28	卒業記念展作品展示物制作 【各自展示物作成】2	タイポグラフィを理解した上でのAdobe Illustratorで表作成・文字レイアウトを行い、Adobe Photoshopで画像加工・画像切り抜きを行い展示物を作成する。各自データ（手書きデザイン）持参。
8	29-30	半期のまとめ	半期のおさらいを行い、理解を深める。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)		授業意欲として日頃からファッション雑誌やWebページ等を「グラフィック」という視点で「見る」事を推奨する。講義内容に対しても積極的に質問をし、自己で理解することが望ましい。授業毎に配布される課題は、提出期限を厳守すること。また、採点後、再提出の際、何を見落としていたのかを理解し、また積極的に質問し改善する事が望ましい。必要教材（持参するデータ）を忘れる受講困難になるので注意が必要である。	

授業科目等の概要

東レクレアコンポのソフトを使用し、アパレルCADの基本操作の講義。主に原型操作・スカートのデザイン展開をしながらパターンマジックのメニューの基本操作を習得する。また、手引きパターンを元に、工場に送り出す前の作業工程を把握する。

学習成果	① 東レクレアコンポのアパレルCADの基本操作を理解する。 ② パターンを理解した操作方法を覚えていく。 ③ アパレルCAD特有の機材操作を習得する。 ※ CADに慣れ基本操作を習得する。	成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	%
			2	提出物・期限遵守	%
			3	独創性・習熟度	70 %
			4	意欲・授業態度	30 %

●KFDオリジナルプリント配布

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1	アパレルCADとは/線の引き方	東レクレアコンポのCADソフトの導入。線の引き方から理解をする。身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
2	2	ダーツの移動1	原型操作をCADのソフトを利用して行うことにより、CADのメニューを把握する。
3	3	ダーツの移動2	原型操作をCADのソフトを利用して行うことにより、CADのメニューを把握する。
4	4	ダーツの移動3	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
5	5	ダーツの移動4	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
6	6	ダーツの移動5	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
7	7	ダーツの移動6	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作を理解する。
8	8	ダーツの移動7	基本操作を理解し反復練習を行う。
9	9	タイトSKからセミタイトSKへ展開1	タイトスカートの展開で基本操作をより理解させる。パターンチェックもここで初めて操作し覚える。
10	10	タイトSKからセミタイトSKへ展開2	タイトスカートの展開で基本操作をより理解させる。パターンチェックもここで初めて操作し覚える。
11	11	確認テスト練習	これまでのCADの基本操作を反復学習をし、より理解を深めさせる。
12	12	確認テスト	これまでのCADの基本操作を反復学習をし、より理解を深めさせる。
13	13	縫い代付けの練習	パート化から縫い代付けを行う。
14	14	Tシャツのパターンをトレースとスキャン	手引きしたパターンをCADパターンにし、より細かなパターン制作が出来るこことを修得する。
15	15	スキャンを行う	工場出するパターンをスキャンし、データ送信の方法を学ぶ。

授業科目等の概要												
学科	服飾専門課程						ファッションデザイン科 2年					
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、バタンナーを目指す。											
分類 種別	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期		後期
授業科目	服飾造形						授業方法	講義	○	演習	△	実習
担当教員	パターンメーキングⅡ						授業時間数	前期	180	後期	165	計 345
※実務家教員	堤 麻実子・岸川 真子						職業実践専門課程：企業との連携					
資格検定	一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：パターンメーキング技術検定試験2級						必修	○	選択			
授業概要	人体の構造、体型を理解して服種別・シルエット各種のパターンメーキングを習得する。また、素材に応じてゆるみや厚み分量を考慮したパターン展開法を身に付け、生産に向けた量産パターン（縫い代付、合印、グレーディング）の知識・技術を習得する。											
学習成果	① 服種別のパターンメーキングを理解する。 ② 縫製を考慮した作図を習得する。 ③ デザインと素材に合った作図を習得する。 ※ デザイン画に合った作図のスキルの習得。						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果	50	%	
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●作図道具一式 ●一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：パターンメーキング技術検定試験2級ガイドブック ●一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック							2	提出物/期限遵守	10	%	
前 期 授 業 計 画 (4月-9月)												
1	1-12	パンツの基本1/4作図、パンツ実物作図、ポケット各種実物作図（パターンチェックとノッチの重要性）						授業習熟度のねらいまたは、準備学習				
2	13-24	デザインパターン展開						パンツの基本からデザインパターンまで理解する。パンツの実物作図に挑戦し、前明きファスターとパンツの作図構成を習得する。				
3	25-36	ジャケット 1/4作図または1/2作図						拘りのないデザインを実現するための構成要素について理解し習得する。				
4	37-48	3面構成ジャケット実物作図及びトワル						3面構成作図の中で行うマニュピュレーションを理解し、デザイン画に沿った作図に挑戦し習得する。				
5	49-60	3面構成ジャケット実物工業用パターン作成						3面構成作図の中で行うマニュピュレーションを理解し、デザイン画に沿った作図に挑戦し習得する。				
6	61-72	コートの基本1/4作図、ラグランスリーブコート実物作図						コートのシルエットやディテールに注目し、素材に対応したラグランスリーブコートを理解し習得する。				
7	73-84	ラグランスリーブコート型出し、工業用パターン作成1						コートのシルエットやディテールに注目し、素材に対応したラグランスリーブコートを理解し習得する。				
8	85-96	ラグランスリーブコート型出し、工業用パターン作成2						コートのシルエットやディテールに注目し、素材に対応したラグランスリーブコートを理解し習得する。				
9	97-108	パターンメーキング技術検定試験対策1						過去の傾向から予想される問題に取り組み理解する。				
10	109-120	パターンメーキング技術検定試験対策2						過去の傾向から予想される問題に取り組み理解する。				
11	121-132	カット＆ソーン1/4作図、実物作図（工業用パターン）						カット＆ソーンの特性や扱い方を理解し習得する。				
12	133-144	文化祭壳品制作：実物作図及び型出し1						デザイン画に沿った作図に挑戦し習得する。				
13	145-156	文化祭壳品制作：実物作図及び型出し2						デザイン画に沿った作図に挑戦し習得する。				
14	157-168	文化祭壳品制作：実物作図及び型出し3						デザイン画に沿った作図に挑戦し習得する。				
15	169-180	半期のまとめ						半期のおさらいを行い、理解を深める。				

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-11	卒業記念展作品：実物作図及び型出し1	デザイン面に沿った作図に挑戦し習得する。
2	12-22	卒業記念展作品：実物作図及び型出し2	デザイン面に沿った作図に挑戦し習得する。
3	23-33	卒業記念展作品：実物作図及び型出し3	デザイン面に沿った作図に挑戦し習得する。
4	34-44	卒業記念展作品：実物作図及び型出し4	デザイン面に沿った作図に挑戦し習得する。
5	45-55	卒業記念展作品：実物作図及び型出し5	デザイン面に沿った作図に挑戦し習得する。
6	56-66	卒業記念展作品：実物作図及び型出し6	デザイン面に沿った作図に挑戦し習得する。
7	67-77	卒業記念展作品：実物作図及び型出し7	デザイン面に沿った作図に挑戦し習得する。
8	78-88	卒業記念展作品：実物作図及び型出し8	デザイン面に沿った作図に挑戦し習得する。
9	89-99	卒業記念展作品：工業用パターン実物作図1	複製を考慮した作図に挑戦し習得する
10	100-110	卒業記念展作品：工業用パターン実物作図2	複製を考慮した作図に挑戦し習得する
11	111-121	卒業記念展作品：工業用パターン実物作図3	複製を考慮した作図に挑戦し習得する。
12	122-132	卒業記念展作品：工業用パターン実物作図4	複製を考慮した作図に挑戦し習得する。
13	133-143	卒業記念展作品：工業用パターン実物作図5	複製を考慮した作図に挑戦し習得する。
14	144-154	卒業記念展作品：工業用パターン実物作図6	複製を考慮した作図に挑戦し習得する。
15	155-165	半期のまとめ	全体の見直しを行い理解を深める。
その他 (授業に際しての注意点)		卒業記念展作品、文化祭売品制作は、ブランドイメージやシーズンコンセプトによってアイテムが変化する。	

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程		ファッショントレーニング		2年
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッショントレーナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、パターンナーを目指す。				
分類	必修	○	選択	配当年次	2年
種別	服飾造形			授業方法	講義 △ 演習 ○ 実習
授業科目	ドレーピングⅡ			授業時間数	前期 8 後期
担当教員	一明 豪			職業実践専門課程：企業との連携	
※実務家教員	○	一明：アパレル衣料、雑貨の企画製作、舞台衣装製作、ブライダル小物・雑貨のオーダーメイド、テレビ番組スタイリスト等で培った実践的な企画・デザイン、縫製技術、衣服の取扱い等を活かし、指導する。			
資格検定					必修 退却

授業概要
ドレーピングに関する基本的な知識・技術を理解し、体の構造を読み取りながら、数値に捉われることなく感性豊かな服作りが出来る技術を身につける。布目の重要性、ボディとパターンの関係、ドラフティングの仕方など、平面作図と比較しながらドレーピングの理解を深める。

学習成果	① 布目の読み取りを習得する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%
	② シルエットの構成、量感バランスを習得する。		2	提出物/期限遵守	50	%
	③ 視覚で判断する力を習得する。		3	独創性/習熟度	30	%
	※ 平面作図の利点を理解し立体裁断の操作方法を習得する。		4	意欲・授業態度	20	%
使用教材	●文化ファッション大系 アパレル生産講座③ ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●ドレーピング材料一式					

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	ボディライン・目標線の入れ方、ピンの打ち方入れ方	ドレービングをする場合の軸を正確に入れ、作業を円滑に行うため、生地の捉え方とピンを打つ方法を習得する。
2	3-4	身頃パネルライン4面構成	前身頃の胸ぐせダーツの処理をデザインに合わせて行い、構造線の適切な位置やフォルムに対して布の扱いを理解し、造形感覚を養いスキルを習得する。
3	5-6	ローウエストフレアスカート	下肢の形態と機能を理解し、ウエストダーツをとらずにフレアの分量を変化させ、構造線の適切な位置やフォルムに対して布の扱いを理解し、造形感覚を養いスキルを習得する。
4	7-8	まとめ ドラフティング	越代の処理とドラフティングをし、再組立を行う事で視覚的に読み取るスキルを習得する。ドレービングのおさらいを行い、理解を深める。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
その他 (授業に際しての注意点)			

授業科目等の概要																		
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン科 2年																	
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッショントレーナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、パタンナーを目指す。																	
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期		後期						
種別	服飾造形						授業方法	講義	△	演習	△	実習						
授業科目	ソーイングII						授業時間数	前期	142	後期	180	計 322						
担当教員	堤 麻実子・岸川 真子						職業実践専門課程：企業との連携											
※実務家教員	○	岸川：OEMメーカー・レディースブランドの企画デザイナーおよび縫製工場の工場棧いの実践的な経験を活かし指導する。																
資格検定							必修			選択								
授業概要	デザインをイメージ通りに表現する為に、素材特性に応じた縫製仕様を考え、裁断、縫製、アイロン作業、最終仕上げまでを学ぶ。また、各種部分縫いを交えながらより良い作品としての技術を習得する。																	
学習成果	① 縫製仕様を理解する。 ② 素材の特性に応じた縫製を習得する。 ③ 縫製機器及びアイロンの取り扱いを習得する。 ※ デザインおよび素材に応じた縫製スキルを習得する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)			1	定期試験結果			%									
					2	提出物/期限遵守			%									
					3	独創性/習熟度			%									
					4	意欲・授業態度			%									
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●裁縫道具一式																	
前 期 授 業 計 画 (4月-9月)							授業習熟度のねらいまたは、準備学習											
1	1-10	特殊素材の各種縫代の始末					素材の特性を生かした基本的な縫合テクニックの習得。											
2	11-20	ファスナー各種、ポケット各種部分縫い					ファスナー仕立て、ポケット各種の縫製テクニックの習得。											
3	21-30	比翼仕立て部分縫い、両玉縁フラップポケット部分縫い					素材の特性を生かした基本的な縫合テクニックとマニピュレーションを行ったポケットの縫合を習得する。											
4	31-40	パンツ裁断、芯貼り、縫製					前明きファスナーパンツの縫製の習得。											
5	41-50	3面構成ジャケット裁断、芯貼り、縫製（どんぐり始末）					既製品仕立ての方法で行い、オーダーメイドとの違いを理解させる。既製品仕立ての方法で縫製への理解を深め、テクニックを習得する。デザインにより裏付の条件が変化することも理解する。											
6	51-60	3面構成ジャケットまとめ、仕上げ					既製品仕立ての方法で行い、オーダーメイドとの違いを理解させる。											
7	61-70	ラグランスリーブコート縫製、芯貼り、					素材に対応したふらせ仕立ての縫製の習得。											
8	71-80	ラグランスリーブコート縫製（ふらせ仕立て）					素材に対応したふらせ仕立ての縫製の習得。											
9	81-90	ラグランスリーブコートまとめ、仕上げ					素材に対応したふらせ仕立ての縫製の習得。											
10	91-100	カット＆ソーン縫製					伸縮素材の縫製の習得。											
11	101-110	文化祭出品制作1					持続可能な開発目標として環境に負担をかけない端材や残反、いらなくなったアイテムを使用し、リメイクの手法を用いて作品を制作する。											
12	111-120	文化祭出品制作2					持続可能な開発目標として環境に負担をかけない端材や残反、いらなくなったアイテムを使用し、リメイクの手法を用いて作品を制作する。											
13	121-130	文化祭出品制作3					持続可能な開発目標として環境に負担をかけない端材や残反、いらなくなったアイテムを使用し、リメイクの手法を用いて作品を制作する。											
14	131-140	文化祭出品制作4					持続可能な開発目標として環境に負担をかけない端材や残反、いらなくなったアイテムを使用し、リメイクの手法を用いて作品を制作する。											
15	141-142	半期のまとめ					半期のおさらいを行う。											

後期授業計画(10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-12	卒業記念展：クリエーション作品裁断、芯貼り、縫製1	各自の素材に対応した縫製テクニックの習得。
2	13-24	卒業記念展：クリエーション作品裁断、芯貼り、縫製2	各自の素材に対応した縫製テクニックの習得。
3	25-36	卒業記念展：クリエーション作品裁断、芯貼り、縫製3	各自の素材に対応した縫製テクニックの習得。
4	37-48	卒業記念展：クリエーション作品裁断、芯貼り、縫製4	各自の素材に対応した縫製テクニックの習得。
5	49-60	卒業記念展：クリエーション作品裁断、芯貼り、縫製5	各自の素材に対応した縫製テクニックの習得。
6	61-72	卒業記念展：クリエーション作品裁断、芯貼り、縫製6	各自の素材に対応した縫製テクニックの習得。
7	73-84	卒業記念展：クリエーション作品縫製1	各自の素材に対応した縫製テクニックの習得。
8	85-96	卒業記念展：クリエーション作品縫製2	各自の素材に対応した縫製テクニックの習得。
9	97-108	卒業記念展：クリエーション作品縫製3	各自の素材に対応した縫製テクニックの習得。
10	109-120	卒業記念展：クリエーション作品縫製4	各自の素材に対応した縫製テクニックの習得。
11	121-132	卒業記念展：クリエーション作品縫製5	各自の素材に対応した縫製テクニックの習得。
12	133-144	卒業記念展：クリエーション作品縫製6	各自の素材に対応した縫製テクニックの習得。
13	145-156	卒業記念展：クリエーション作品アクセサリー小物1	各自のイメージに合った小物アクセサリーの制作に取り組み、必要なテクニックを習得。
14	157-168	卒業記念展：クリエーション作品アクセサリー小物2	各自のイメージに合った小物アクセサリーの制作に取り組み、必要なテクニックを習得。
15	169-180	卒業記念展：クリエーション作品まとめ、仕上げ	全体の見返しを行い理解を深める。
その他 (授業に際しての注意点)		素材に応じたテクニックが必要となるため、手間がかかる事を想定し納期計画をきちんと立てる。卒業記念展作品、文化祭亮品制作は、ブランドイメージやシーズンコンセプトによってアイテムが変化する。	

授業科目等の概要																															
学科	服飾専門課程 ファッションデザイン科 2年																														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では、ファッションデザイナーに欠かせない感性と発想力を元に、情報収集、企画、造形、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。将来は企画職、デザイナー、バタンナーを目指す。																														
分類	必修	○	選択		配当年次	2年	学期	通年	○	前期		後期																			
種別	流通・販売				授業方法	講義	△	演習		実習	○																				
授業科目	市場調査Ⅱ				授業時間数	前期	15	後期	15	計	30																				
担当教員	堤 麻実子・岸川 真子				職業実践専門課程：企業との連携				○																						
※実務家教員	○	岸川：OEMメーカーやレディースブランドの企画デザイナーおよび縫製工場の工場見学の実践的な経験を活かし指導する。																													
資格検定																															
授業概要	ファッション産業や小売業などのビジネスの基礎を理解し、直接現場を見て学び、顧客ニーズを的確につかみ製品企画や作品制作に反映させることを目的とする。本や雑誌だけでは得ることができない情報を市場から収集し、まとめる事で時代の空気を読み取る力を伸ばす。常に「まち・みせ・ひと」から情報を得る事の重要性を認識させる。また、プレゼンテーションを行う事で自分の意見を提案する力を身につける。																														
学習成果	①	ファッション業界の市場や商品を観察し理解を深める。				成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%																					
	②	消費者の動向を調査・分析しターゲット理解を深める。					2	提出物/期限遵守		50	%																				
	③	製品企画・開発に活かす。					3	独創性/習熟度		30	%																				
	※	売れ筋を調査しトレンドの把握と絵型のスキルを習得する。					4	意欲・授業態度		20	%																				
使用教材	●文化学園 文化事業局 テキスタイルハンドブック ●ファッションディクショナリー ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●流行色 ●WWD ●織研新聞																														

前期授業計画(4月-9月)				授業習熟度のねらいまたは、準備学習			
1	1	リサーチ方法について、継続的なブランド調査について、ファッション雑誌活用方法、平面画について		デザイナーとしてリサーチのポイントと活用方法について学び、商品デザインに落とし込むスキルを習得する。			
2	2	変化するデザインやアイデア収集1 パンツ		店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへと応用するスキルを習得する。			
3	3	生地の知識、プリント方法について 変化するデザインやアイデア収集2 スカーフ ハンカチ		生地の知識とプリント生地について把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへと応用するスキルを習得する。			
4	4	職業実践専門課程 企業リサーチ		企業を知り、ブランドのコンセプトを把握し、製品開発にむけた調査分析を行いターゲット理解を深める。			
5	5	職業実践専門課程 商品リサーチ		ブランドの商品調査やターゲットの嗜好を把握し、製品デザインへの理解を深める。			
6	6	スーツの商品調査1		スーツを店舗調査で色、素材（品質表示含む）デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し収集した情報を絵型にまとめデザインへ応用するスキルを習得する。			
7	7	コートの商品調査1		各自のコードを作成するにあたり、店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへ応用するスキルを習得する。			
8	8	学外研修1		世の中の動向や変化の情報を収集し、感性を刺激する作品に触れる制作への理解を深める。			
9	9	卒業記念展 デザイン調査1		店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへ応用するスキルを習得する。			
10	10	卒業記念展 デザイン調査2		店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへ応用するスキルを習得する。			
11	11	文化祭壳品作品 デザイン調査1		文化祭で制作する作品店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへ応用するスキルを習得する。			
12	12	文化祭壳品作品 デザイン調査2		文化祭で制作する作品店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへ応用するスキルを習得する。			
13	13	職業実践専門課程 デザイン調査1		ブランドコンセプトを把握し製品開発にむけたデザインと縫製仕様の情報を収集し、絵型にまとめ自分のデザインに応用するスキルを習得する。			
14	14	職業実践専門課程 デザイン調査2		ブランドコンセプトを把握し製品開発にむけたデザインと縫製仕様の情報を収集し、絵型にまとめ自分のデザインに応用するスキルを習得する。			
15	15	半期のまとめ		リサーチのまとめを行う。			

後期 授業 計画 (10月-3月)			授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1	学外研修2	世の中の動向や変化の情報を収集し、感性を刺激する作品に触れる作品制作への理解を深める。
2	2	卒業記念展作品 デザイン調査1	店舗調査や見学会など様々なシーンにおいて作品のヒントとなる色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、コーディネートを見て収集した情報を造形デザインへと応用するスキルを習得する。
3	3	卒業記念展作品 デザイン調査2	店舗調査や見学会など様々なシーンにおいて作品のヒントとなる色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、コーディネートを見て収集した情報を造形デザインへと応用するスキルを習得する。
4	4	卒業記念展作品 デザイン調査3	店舗調査や見学会など様々なシーンにおいて作品のヒントとなる色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、コーディネートを見て収集した情報を造形デザインへと応用するスキルを習得する。
5	5	卒業記念展作品 デザイン調査4	店舗調査や見学会など様々なシーンにおいて作品のヒントとなる色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、コーディネートを見て収集した情報を造形デザインへと応用するスキルを習得する。
6	6	変化するデザインやアイデア収集1	店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへと応用するスキルを習得する。
7	7	変化するデザインやアイデア収集2	店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへと応用するスキルを習得する。
8	8	変化するデザインやアイデア収集3	店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへと応用するスキルを習得する。
9	9	変化するデザインやアイデア収集4	店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへと応用するスキルを習得する。
10	10	変化するデザインやアイデア収集5	店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへと応用するスキルを習得する。
11	11	変化するデザインやアイデア収集6	店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへと応用するスキルを習得する。
12	12	変化するデザインやアイデア収集7	店舗調査で色、素材（品質表示含む）、デザイン、縫製仕様、サイズ感、価格を見て市場を把握し、収集した情報を絵型にまとめデザインへと応用するスキルを習得する。
13	13	学外研修3	世の中の動向や変化の情報を収集し、感性を刺激する作品に触れる作品制作への理解を深める。
14	14	学外研修4	世の中の動向や変化の情報を収集し、感性を刺激する作品に触れる作品制作への理解を深める。
15	15	市場調査まとめ	半期のまとめを行い、年間を通して確認する。
その他 (授業に際しての注意点)		日頃から、街、店、人に注目し取り組む。	